六　中東鉄道問題

228　昭和7年1月15日　在長春田代(重徳)領事より芳沢外務大臣宛

中東鉄道ソ連人職員の大幅な整理の風説について

機密公第二八號　（1月21日接受）

昭和七年一月十五日

在長春

領事　田代　重徳〔印〕

外務大臣　芳澤　謙吉殿

東鐵ノ「ソ」聯從業員大整理說ニ關スル件

本件ニ關シ長春警察署報告ニ依レハ東支鐵道ハ收入減ニ對スル經費節減及滿洲事變以來中國側理事ノ態度强硬ノ結果トシテ主張セラルル露華從業員ノ均等並ニ時局柄「ソ」聯幹部ノ企圖ト觀察セラルル積極的「ソ」聯露人ノ東鐵扶殖策卽日和見黨員ノ淸算案等ノ結果愈々「ソ」聯從業員一千名ヲ本月中ニ馘首スルコトニ決定セル趣ニテ露人從業員ハ不安ニ駈ラレツツアリ當地寬城子驛百五十名ノ蘇聯露人中本月一日附ヲ以テ馘首セラレタルモノハ左記五名ナルカ尙數名ノ馘首ハ免レサルモノト見ラレツツアリト

記

一、電信係主任　コベリコフ
一、電信係員　ヴァートキナ
一、病院看護婦　ボリシヤーニコワ
一、同　ナザーロフ
一、同　ドジウ

右御參考迄報告ス

本信寫送付先　在華公使　北平　奉天　吉林　哈爾賓　滿洲里　齊々哈爾

229　昭和7年1月28日　林(寿夫)関東庁警務局長より永井(松三)外務次官宛(電報)

ハルビンの在留邦人保護のため出動した部隊に対し中東鉄道職員が運転拒否のため滿鉄職員により運転代行を行った事情について

関東庁　1月28日後発
本　省　1月28日後着

コ第四八號（至急）

哈爾賓ニ於ケル支那軍ノ戰鬪ニ依ル在留邦人ノ被害ハ鮮人死者一六行方不明二〇日本人ノ行方不明三?・四名アル見込ミ尙吉林軍ノ形勢不利ニシテ在留邦人ノ危險切迫ニ依リ之カ保護ノ爲長春駐屯第三旅團ニ對シ本日午前三時出動命令アリシモ長春寬城子東鐵驛長ハ列車ノ運轉ヲ拒否セリ一面吉林軍應援ノ爲出動準備中ノ吉長鐵道守備支那兵一三〇〇名ハ東鐵側ノ運轉拒否ノ爲寬城子驛ヲ占領シ列車ヲ抑留監視中ノ處本朝來驛長以下列車從業員全部逃走シタル爲已ムヲ得ス滿鐵社員ニテ東鐵列車ヲ運轉シ午後一時第三旅團司令部及第四聯隊全部哈爾賓ニ出動スルコトニ決セリトノ報アリ

230　昭和7年1月29日　在ハルビン大橋(忠一)総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道ソ連側としては日本軍の輸送に反対しないとの同鉄道副理事長の内話について

ハルビン　1月29日後発
本　省　1月29日後着

第八一號

本官發奉天宛電報

第六四號

往電第五八號ニ關シ

東支管理局長ヨリ南部線從業員ニ對シ日本軍輸送ヲ妨害セサル樣訓令セル旨ノ情報アリタルニ付「クズネツオフ」ニ眞否ヲ確メタル處「ク」ハ未タ莫斯科ヨリ何等ノ回訓ニ接セス旁左樣ノ事實ナシ但局長ヨリ別ニ妨害スヘシトノ命令ヲ出シタルコトナシ只線路等ノ破壞ハ所屬不明ノ支那兵ノ行爲ナルニ付丁超及張景惠ニ抗議シ置キタリ目下ノ處東支支那側幹部カ日本軍輸送ニ反對ナル爲勞農側トシテハ如何トモ致方ナシト回答シタルニ付然ラハ支那側幹部カ反對セサルニ於テハ勞農側ニ於テモ異議ナキヤト質シタルニ「ク」ハ支那側ニ於テ異議ナキ旨勞農側ニ通告スレハ事態ハ著シク緩和スルニ付直ニ幹部會議ヲ開キ勞農側ノ態度ヲ決スヘシト答ヘタリ

右ハ二十八日夜ノ態度トハ全然異ナリタルモノニテ二十九日午后開會セル勞農幹部會議ノ結果我方ノ感情ヲ害ハサル爲決定シタル處ナルヘク右ニ見テモ勞農側ノ本件ニ對スル態度ハ何處迄モ弱腰ナリト思考セラル

尙特務機關ヨリ李紹庚ニ迫リ異議ナキ旨勞農側ニ通告セシムル筈

關東軍ニ御傳アリタシ

大臣、露、支、北平、長春ヘ轉電セリ

231　昭和7年1月29日　在長春田代領事より芳沢外務大臣宛(電報)

我が軍出動阻止のため中東鉄道護路軍が妨害工作を行なうとの風説について

長春　1月29日後発
本省　1月29日後着

第二一號

二十九日午後二時接到ノ張家灣ノ情報ニ依レハ我軍ハ老少溝附近ノ破壞線路ヲ修理シ陶賴昭ニ達シタル趣ナリ

尙昨夜東鐵護路軍ハ日本軍ノ出動ヲ阻止スル爲張家灣附近ノ鐵路破壞ニ付東鐵側ノ諒解ヲ求メタル處窰門驛長ハ地勢不利ニ付老少溝ニ軍ヲ集結シ同地ニ於テ防禦スルノ有利ナルヲ指示シ同地附近ノ線路破壞ヲ承認セリトノコトナリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊齊哈爾、滿洲里、農安ヘ轉電セリ

232　昭和7年1月30日　在ソ連邦広田大使より芳沢外務大臣宛(電報)

我が軍のハルビン出兵および中東鉄道利用に対するカラハンの非難について

モスクワ　1月30日前発
本省　1月30日後着

第六一號

貴電[1]第二五號ニ關シ

二十九日「カラハン」ニ面會御來示ノ趣旨ヲ敷衍說明セル處「カ」ハ自分ノ方ニモ本事件ニ付報告アリタルカ是迄貴使ハ屢々日本側ニ於テハ哈爾賓方面ヘ出兵スルカ如キコト無キ旨聲明セラレタルニ今回突如出兵ヲ見ルニ至リタルハ日本政府ノ政策變更ナリヤ斯ルコトハ卽チ誤解ヲ生スル原

因ナルカ自分トシテハ成ル可ク誤解ヲ欲セサル次第ナリ現ニ芳澤外相ハ過般議會ニ於テ日蘇間ノ國交ハ何等紛議ノ生スル點無キ意味ヲ聲明セラレタルニ今ヤ突然日本側カ斯ル行動ニ出テラレタルハ或ハ政策ノ變更カトモ思ハル斯クテハ蘇側トシテハ之ヲ默視スル能ハス或ハ右日本軍ノ行動ニ對シ抗議スルノ已ム無キニ至ルヤモ計ラレス殊ニ「クズネツオフ」ハ哈爾賓駐在日本特務機關ヨリ軍隊輸送ノ爲東支利用許可方申出アリタルニ對シ嘗テ蘇政府ヨリ發シタル訓令ニ基キ飽迄中立ノ態度ヲ持シ右申出ヲ斷然斷ハリタルニ拘ハラス日本軍憲ハ之カ許可ヲ請求シテ（一字欠）マス依テ「ク」ハ昨二十八日東支利用方ニ關シ日本側ヨリノ申出ニ付如何措置スヘキヤト請訓シ來レリ元來東支ハ蘇支兩國ノ共同管理ニ屬ス故ニ之カ運行ニ付テハ一方的ニ決シ能ハサル點アルニ付右「ク」ノ請訓ニ對シテハ蘇政府ハ若シ支那側ニ於テ承諾セハ異議ヲ唱フル必要無キ旨ヲ回訓シ置キタリ殊ニ日本側今回出兵ノコトハ蘇側トシテハ昨二十八日始メテ承知シタルノミニテ誠ニ面白カラサル事態出來シタル譯ナリト言ヒ此ノ旨特ニ日本政府ニ御傳アリタシト言ヘリ

本使[2]ハ只今御話ノ次第ハ無論政府ニ報告ス可キモ政府ノ本使ニ對スル訓令ハ只今御話ノ如キ貴方ノ誤解ヲ避クル爲特ニ發セラレタルモノト思ハル日本政府ハ當初ヨリ事態不擴大ノ方針ヲ維持シ今日ニ於テモ決シテ政策ヲ變更セルモノトハ思ハレス又日本政府トシテハ貴方ノ不干涉政策ヲ多トスルコトハ芳澤大臣ノ聲明ノ通ナルカ御承知ノ通今回ノ出來事ハ非常ニ急ヲ要シタル事ニテ在哈爾賓日本官憲ハ取急キ「ク」ニ交涉シタルモ急速回答ヲ得サリシ爲萬已ムヲ得ス今回ノ擧ニ出テタルモノト想像セラル兎ニ角日本政府ニ於テハ政策變更乃至蘇側ノ東支ニ對スル利益侵害等ノ意志ヲ毛頭有シ居ラサル點ニ付テハ充分了解アリ度シト繰返シ、述ヘタルニ「カ」ハ右ニ對シ一ノ事實ヲ指示ス可シトテ實ハ日本特務機關ヨリハ既ニ送兵着手後ニ於テ「ク」ニ東支利用許可方ヲ申出來レリ斯ル措置カ卽チ誤解ノ因ナリト言ヒ次テ目下哈爾賓ノ狀況ニ付尋ネタルニ付本使ハ未タ日本側ノ詳細ナル報道ニ接セス寧ロ「タス」電ニテ大体ヲ承知シ居ル位ナリ只外務省以外ヨリノ斷片的報道ニ依レハ熙(熙カ)洽軍ト元張作相軍トノ間ニ衝突ノ結果傅(傅カ)家甸方面ニテハ日本人多數危害ヲ受ケ居リ我飛行將校ハ射殺セラレ哈爾賓在留ノ日本臣民ハ極度ニ憂慮シ居ル模樣ナリ斯ノ如キ急迫

ノ事情カ卽チ日本軍ノ急遽出動ヲ促シタルモノト思ハルル旨談リ置ケリ

追テ右ニ關シ「ソ」側ニ對スル應答振御回電ヲ請フ

哈爾賓　米　聯盟ヘ轉電セリ

聯盟ヨリ在歐大使（土ヲ除ク）ヘ轉電アリタシ

233　昭和7年1月30日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道ソ連側は我が軍輸送に協力するので拘禁中の職員解放を望むとの中東鉄道副理事長から百武中佐への依頼について

ハルビン　1月30日後発
本　省　1月31日前着

第八七號

往電第八三號ニ關シ

本三十日午後三時百武中佐ハ「クヅネツオフ」ヲ往訪シタル處「ク」ハ我軍ノ輸送ニ關シ東支支那側ト勞農側トノ間ニ妥協成立スルニ至ラサリシ處勞農側トシテハ早速當地ヨリ貨物列車ヲ長春ニ向ケ出發セシムル一方南部線ノ各驛ニ對シテ運輸事務ノ回復方ヲ指令スヘク日本側ニ於テモ長春及寛城子ニ於テ拘禁セラレタル驛從業員ヲ釋放アリタキ旨要求シタルニ付百武中佐ニ於テモ大体之ヲ承諾シ置キタル處其ノ後「ルーディ」管理局長ヨリ特務機關ニ對シ五家屯ニアル貨物列車ヲ連結シテ長春ニ向ハシムル爲午後六時二十分機關車ヲ哈爾賓ヨリ南下セシメタリ同時ニ一門堡驛ニ對シテハ直ニ寛城子驛ト聯絡スル樣指令濟ナル旨通告シ來レル趣ナリ

前電ノ通リ轉電セリ

234　昭和7年1月30日　林関東庁警務局長より永井外務次官宛(電報)

ソ連側による中東鉄道破壊の風説に対し在旅順英・米・仏各国領事が抗議通告を発する模様との情報について

関東庁　1月30日後発
本　省　1月30日後着

高第五五號（親展）

哈爾賓情報ニ依レバ日本軍ノ內外人保護ノ爲出動スルニ際シ蘇聯邦ハ國際的幹線タル鐵道ヲ破壞スル等畢竟交通保全權ヲ放棄シタルモノニシテ今後如何ニ事態惡化スルモ日本ニ其ノ責任ナシト英、米、佛各國領事ハ等シク蘇聯ノ態度ニ憤慨シ東鐵當局ニ對シ通告ヲ發スル模樣ナリト

235　昭和7年2月1日　在奉天森島(守人)総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

寛城子における中東鉄道および従業員の抑留は日本軍ではなく吉林軍によるとの片倉参謀の来談について

奉　天　2月1日後発
本　省　2月1日後着

第一七六號

一日片倉參謀ノ來談ニ依レハ過般寛城子ニ於テ日本軍カ東支ノ車輛並ニ從業員ヲ抑留セル旨傳ヘラルル處右ハ事實無根ニシテ吉林軍カ前記抑留ヲ爲シタルヲ誤リ傳ヘタルモノナル由ナリ

長春發閣下宛電報第二二號ノ次第ハアルモ爲念

米、聯盟、支、北平、長春、吉林、露、哈爾賓ヘ轉電セリ

236　昭和7年2月2日　在長春田代領事より芳沢外務大臣宛(電報)

我が軍輸送につき第二師団参謀と中東鉄道南部線運転監督との間に協定成立について

長　春　2月2日後発
本　省　2月2日後着

第三三號

師團司令部二日朝出發前管理局長ヨリ正式委任ヲ受ケタル南部線運轉監督「ジェシコ」（事件前ヨリ偶々當地ニアリタルモノ）ト第二師團參謀長トノ間ニ軍事輸送ニ關シ左記ノ通協定ヲ遂ケ往電第三二號第一次列車ハ數名ノ東支從業員乘車指導ノ下ニ滿鐵社員運轉セルモ第二次列車ヨリハ全部東支乘務員ノミニテ運轉スルコトトナレリ

第一條、中東鐵路局ハ日本軍ノ要求ニ從ヒ軍事輸送ヲ行フ

第二條、第一條ノ實施確實ヲ期シ難キ場合ニハ日本軍ハ輸送確保ノ必要上所要ノ處置ヲ爲スコトアリ

第三條、鐵路側ハ日本軍ノ輸送ヲ確實ナラシムル爲一時鐵路通信其ノ他ヲ日本軍ノ使用ニ供ス

第四條、日本軍ノ輸送ニ要スル經費ハ日本軍之ヲ支辨ス之

カ細部ハ別ニ之ヲ定ム
露、支、北平、奉天、哈爾賓、滿洲里、齊々哈爾ヘ轉電セリ

237　昭和7年2月3日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

チチハルよりハルビンに向け出動中の鈴木旅団は安達付近で中東鉄道破壊のため立往生中との情報について

ハルビン　2月3日後発
本　省　2月3日後着

第九九號
當地國際運輸ニ入レル情報ニ依レハ齊々哈爾鈴木旅團ハ三日午前三時四箇列車ニ分乗シ東支ニ由リ昂々溪ヲ出發シ當地ニ向ヒツツアルモ安達附近ニテ鐵道ヲ破壊サレ居ル模様ナル趣ニテ特務機關ニ於テモ公報ニハ接セサルモ多分事實ナルヘシト云ヒ居レリ一方(脱)情報ニ依レハ三日午前二時ヨリ同六時迄ノ間ニ當地ヨリ四回ニ亘リ西部線ニ由リ支那軍輸送サレタル趣ナリ尚東支ハ累次往電ノ如ク未タ西部線ニ由ル我軍輸送ヲ承諾スルニ至ラサルニ鑑ミ右情報ニシテ事實ナリトセハ鈴木旅團ノ行動ハ自衛上ノ緊急措置ニ出テタルモノト思考ス
在露大使、在支大(公カ)使、北平、奉天、長春、吉林、齊々哈爾ヘ轉電セリ

238　昭和7年2月5日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍の中東鉄道に対する強圧的行為につき在ハルビンソ連総領事より申越しについて

別　電　二月五日発在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛第一一七号
右申越し要約

ハルビン　2月5日後発
本　省　2月5日後着

第一一六號
本五日當地蘇聯總領事ヨリ半公信ヲ以テ南部線ニ於ケル我軍ノ強力的行爲ニ關シ別電第一一七號ノ通申越アリタルカ目下我軍當地郊外ニ迫リ市中ハ敗殘兵ノ往來多ク危險ナル

ニ付我軍入市後特務機關ト打合ノ上回答方考慮スル所存ナリ
露、奉天、長春ヘ轉電セリ

(別　電)

ハルビン　2月5日後発
本　省　2月5日後着

第一一七號
當地蘇聯總領事二月五日附半公信要約左ノ如シ
日本軍カ寛城子驛ヲ占領シ東支南部線ニ行動スルコトトナリテヨリ日本軍兵カ蘇聯人ニ對シ爲シタル强力的行爲種々アリ二月二日迄ニ發生シ且本官ニ知レタル此種事件ハ本官ヨリ蘇聯外務人民委員部ニ報告シ置キタリ
最近二箇月間ニ發生シ本官ノ知レル事實左ノ如シ
(一)二(マヽ)月三日五家驛ヨリノ報告ニ依レハ日本兵ハ三日ヨリ四日ニ亘ル夜中鐵道從業員(其一部ハ蘇聯人ナリ)ノ住宅ヲ占領セリ
(二)「ユーゴウイチ」驛ニ於テモ四日ヨリ五日ニ亘ル夜中同様ノ事實アリ
(三)双城堡驛ニ於テ第五十四列車出迎ノ爲職務執行中運轉助役タル蘇聯人「デルカチ」及「ポイントマン」タル蘇聯人「クラスビ゜ペーエフ」ハ日本軍巡邏隊ノ爲襲撃セラル
以　上
露、奉天、長春ヘ轉電セリ

239　昭和7年2月6日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道西部線運行停止の背景には馬占山軍の反吉林軍援助および我が軍の立場悪化を目論むソ連側の意図があるとの推測について

ハルビン　2月6日後発
本　省　2月6日後着

第一二四號
滿洲里發本官宛電報
合第六號
本官發大臣宛電報
第一〇號
往電第八號ニ關シ

一、二日以來「チヤラントン」ニ立往生中ノ列車ハ東支側トノ妥協ノ下ニ行ハレタルモノノ如ク馬軍ノ反吉林軍援助ニ依リ齊々哈爾日本軍ノ入哈防止ト蘇側ニ於ケル日本軍ノ西進阻止及國際鐵道タル東支ノ運行停止ヲ長引カセテ國際關係上日本ノ立場ヲ不利ニ陷ラシメントスル底意等ノ關係カ合流シタル結果ニ非ヤスト思料セラル

二、玆二三日來當地東支鐵道附屬「コーペラチーブ」ニ食料品購入ノ蘇聯人殺到シ居レルカ右ハ東支線ノ杜絶長引キ物價ノ騰貴ヲ見越シタルモノナルヘク現在既ニ諸物價ハ大體二割ノ高價ヲ叫ヒ且哈爾賓ヨリ哈大洋ノ現送無キ爲當地錢莊限リニテ任意ニ哈大洋相場ヲ釣上ケ百圓對百五十元トナリタリ

三、目下「コムソモール」多數當地方潛入ノ爲謠言百出シ殊ニ白系露人ハ大恐慌ヲ來タシ居レリ

四、當地方ハ目下ノ處一般的ニ鎭靜ヲ持シ居ルモ我民會側ニテハ萬一ニ備フル爲食料品及燃料等ヲ購入セリ

哈爾賓ヨリ外務大臣、在支公使、北平、奉天、長春ヘ轉電アリタシ露、齊々哈爾ヘ轉電セリ

240　昭和7年2月6日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道南部線輸送の再開について

ハルビン　2月6日後発
本　省　2月6日後着

第一二五號

昨五日夜百武中佐「ルーデル」局長ヲ訪問シ最早哈爾賓双城堡間ノ支那軍ノ妨害排除セラレタル譯ナルカ今（後）南部線ニ依ル種々ノ軍需品輸送ノ必要生スヘキヲ以テ至急同線運行恢復方ヲ要求シタルニ對シ「ル」ハ「ユーゴウイツチ」驛（當地附近？）トノ鐵道聯絡恢復セハ右要求ニ副フ樣極力努力スヘキヲ約シタルカ今六日早朝先頭軍用列車當地ニ到着シタルヲ以テ第一回ノ長春行旅客列車ハ定刻ノ午前八時五十分南下セリ

尙右會談中百武ハ運行恢復シ今後軍事輸送可能トナルモ從來ノ護路軍カ逃亡シタル結果沿線ノ警備上御互ニ不便ヲ感スル次第ナルカ日本軍トシテハ他ノ鐵道ノ警備ニ迄任スル譯ニハ行カサルニ就テハ御互ニ協力シテ萬全ヲ期シタシト語リタルニ對シ「ル」ハ其點ハ列車運行ノ恢復ト同時ニ發

生スヘキ重要問題ニシテ自分モ既ニ此點ニ注意シ實ハ明六日ニテモ早速理事會ニ本件審議方ヲ要求スル積リナルカ恐ラク理事會ハ行政長官トモ折衝シ速ニ本問題ヲ解決スルコトトナルヘシト答ヘタリ

尙西部線ハ安達以東ニ於テ支那軍カ列車機關車等ヲ抑留シ且破損個所アル爲現在不通ナリ

露、支、北平、奉天、長春、吉林、齊々哈爾、滿洲里ヘ轉電セリ

241　昭和7年2月7日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道西部線の運転再開について

ハルビン　2月7日後発
本　省　2月7日後着

第一三〇號

滿洲里發本官宛電報

合第七號

本官發大臣宛電報

第一二號

往電第八號第四項ニ關シ破壞線路復舊程度確メノ爲試驗的ニ六日朝當地ヨリ「チヤラントン」迄一個列車ヲ發車セシメタル結果修理完了セル事判明本七日朝ヨリ定期列車ノ運轉ヲ開始シ漸ク西部線ノ開通ヲ見タリ

哈爾賓ヨリ外務大臣、在支公使、北平、奉天、長春ヘ轉電アリ度シ露、哈爾賓、齊々哈爾ヘ轉電セリ

242　昭和7年2月10日　在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道西部線による我が軍輸送依頼方に対し中東鉄道当局承諾について

ハルビン　2月10日後発
本　省　2月10日後着

第一四二號

當地軍部ハ一時未解決ノ儘ニナリシ日本軍ノ齊々哈爾當地間ノ東支ニ依ル輸送關係交渉ヲ解決シ置キ度キ意嚮ヲ以テ十日午前百武中佐ヲシテ訪問セシメタル處李紹庚ハ最早舊軍閥ヨリノ自分ノ生命ニ對スル危險ハ除去セラレタルヲ以

テ右區間ノ軍隊輸送ヲ承認スル旨聲明シ其ノ席上ニ於テ其ノ旨「クズネツオフ」ニ電話ニテ通告シタル上之ニテ本件ニ對スル理事會ノ蘇支双方ノ一致セル同意成立シタル旨百武ニ聲明シ本件ヲ解決セリ

尚右會見ノ際百武ハ李ニ對シ目下軍ハ當地驛内ニ從來護路軍ノ使用シ居タル裝甲列車二箇ヲ抑留シ居ル處右ハ日本軍ニ抵抗セル護路軍ニ屬シ居タル關係上戰利品トモ一應ハ看做シ得ヘキ樣思ハルルカ將來沿線ノ匪賊討伐ノ際ニ備フル爲豫メ一定ノ機關車ヲ配屬セシメ置キ必要ニ依リ日本側ニ於テ直ニ使用シ度キカ如何ト申入レタルニ對シ李ハ右ハ列車ノ使用權ハ護路軍ニ在リタルモ物品其ノモノハ鐵道ノ財産ナルヲ以テ行政長官ヨリ右ノ目的ノ爲ノ使用方ニ付要求アリ且勞農側ニ於テ異存無キ限リ使用セラレ差支無キ旨回答シタルヲ以テ百武ハ左樣手續スル樣述ヘ辭去セリ尚其ノ際李ハ從來管理局長（蘇聯人）ノ權限餘リニ廣範ナル爲勞農側ハ幾多ノ横暴ヲ極メ這般南部線ノ運行停止ノ如キハ局長獨斷ニテ取扱ヒタルニモ拘ラス軍隊輸送ノ件ニ付テハ却テ御承知ノ如ク自分ヲ窮地ニ陷入レタル次第ナリ云々ト釋明シ從來ノ極端ナル親露排日的態度ヲ急變シ只管諂ヒ事ヲ弄シ居タル趣ナリ

公使、莫斯科、北平、奉天、吉林、齊々哈爾ヘ轉電シ長春、滿洲里ヘ暗送セリ

243 昭和7年2月10日 在ハルビン大橋総領事より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道売却説につき同鉄道理事長代理の内話について

ハルビン 2月10日後発
本 省 2月10日後着

第一四四號

十日百武中佐カ往電第一四二號ニ關シ李紹庚ヲ訪問セル際同人ハ同件ノ當館杉原ニ對シ

㈠自分ハ理事長代理ナルヲ以テ重要案件ニ付テハ從來在莫中ノ莫德惠理事長ニ請訓シ來リタル處最近ハ莫斯科ヨリモ一向回訓來ラサリシカ這般理事長ノ全權ヲ自分ニ委任スル旨申來リタルモ右ハ政府ノ訓令乃至東支ノ規定ニ基ケルモノニ非サルヲ以テ自分トシテモ之ヲ直ニ受理シ得ヘキ筋合ノモノニ非ス依テ不取敢莫ノ獨斷的委任ト看做シテ假リニ

受諾シ現ニ事實上理事長ノ職務ヲ執行シ居リ之ニ對シ勞農側ハ何等ノ意思表示ヲ爲シ居ラス

㈡莫ハ恐ラク滿洲ニ歸還スルコト無ク外國ニ赴クニハ非スヤト思ハル

㈢莫斯科會議ニ於テ勞農側ノ非公式ニ洩ラシタル東支賣却評價額ハ約二億留見當ナルカ自分ノ觀ル所ニテハ一昨夜東京「ラジオ」ノ傳ヘタルカ如キ八千萬圓ハ稍々高キニ過クル感アリ尤モ右「ラジオ」放送ノ如キ勞農側ノ東支利權ノ對日讓渡説ニ關シテハ何等聞及ヒ居ラス

㈣數日前吉林熙洽ヨリ一日附理事會宛電報ヲ以テ今後熙洽及東北交通委員會ヨリ東支ニ對シ何等申出アリタル場合ハ絶對妨害スヘカラスト命シ來リタルカ本件ニ對シ理事會トシテハ目下ノ處何等考慮シ居ラスト述ヘタリ

尚十日杉原カ他用ニテ管理局長「ルーデイ」ヲ訪問シタル際同人モ右賣却説ヲ打消シ居タリ

公使、莫斯科、北平、奉天、吉林ヘ轉電シ長春、齊々哈爾、滿洲里ヘ暗送セリ

244 昭和7年3月(7)日 在ソ連邦広田大使より芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍の中東鉄道沿線出兵とポーツマス条約の関係につきカラハンとの会談について

モスクワ 発
本 省 3月7日後着

第一六〇號

往電[1]第一五八號ニ關シ

同日夜「カ」ハ本使ヲ往訪シタキ旨申出テタルニ付八時半ヨリ面會シタル處「カ」ハ本日ノ日本側回答ハ未タ政府ニ報告セサルモ右内容ニ付多クノ疑念起リタル爲病中御迷惑ヲモ顧ミス參上セリト斷リタル上第一ニ日本側回答ハ東支沿線ニ對スル日本軍隊派遣ト「ポーツマス」條約トノ關係ニ付明確ナル説明ヲ與ヘ居ラス卽チ元來同條約ニ依レハ兩締約國ハ滿洲ニ於ケル鐵道ヲ軍略的目的ノ爲ニ利用シ得サルヲ以テ同鐵道ニ對シ正規軍ヲ配備スルカ如キハ嚴禁セラレ居リ唯各自ノ鐵道保護ノ爲ニ守備兵ヲ置キ得ルニ過キス故ニ東支線ニ於テハ支那側又ハ蘇側ノミカ守備兵ヲ置キ得ヘキモノナルカ蘇側ハ今日其兵ヲスラ置カス然ルニ日本ハ

東支線ニ正規軍ヲ送リ居レリ此點條約違反ト解セサルヲ得ス他方又蘇側トシテモ右派兵ニ關スル日本側ノ要求ヲ承認スルコトニ依リテ右條約ニ違反スルコトトナルヘシ又日本側ハ右派兵ヲ以テ居留民保護ノ爲ノ警察的自衛行爲ナリトナスモ現ニ日本軍ニハ東支ノ或區間ニ亘ル警備ノ引受及右守備兵ノ無賃輸送ヲ希望シ

東支南部線ニ於テハ事實上之ト警備ニ當リ居レリト述ヘタルニ付本使ハ今回日本軍東支沿線派遣ノ性質及「ポーツマス」條約トノ關係ニ付テハ前記回答ノ通リニテ日本側モ蘇側モ決シテ條約違反トハナラス詳言スレハ今回ノ派兵ハ第一滿洲事變ノ爲ニ起リ第二東支沿線ニ於ケル日本居留民ノ生命財産カ危險ニ瀕スル爲ニ生シタルモノニテ斯ノ如キ特別ノ事態ハ「ポ」條約ノ豫見セサル所ナルノミナラス日本ハ斯ル特別危急ノ事態發生ノ爲已ムヲ得ス派兵スルニ當リテモ完全ニ東支營業上ノ手續ヲ履ミテ軍隊輸送ヲ依賴シ蘇側ノ好意ニ依リ派兵スルモノニテ之カ爲毫モ條約違反論ヲ惹起スル筈ナキモノナリ貴下ハ適々我居留民カ東支沿線ニ居住スル爲同地ニ派兵セラレタル事實ヲ以テ直ニ日本側カ正規軍ヲ東支線ニ配置シタルカ如ク解セラルルハ全ク謂レナキコトニシテ日本ハ只居留民保護ノ手段ヲ講シタルニ過キサルナリ要スルニ今回ノ派兵ハ全ク日本臣民保護ノ爲ノ警察的自衛行爲ニ過キサルモノニシテ毫モ「ポ」條約ノ條項ト牴觸スルカ如キコトナシ曩ニ哈爾賓日本軍方面ヨリ當地當局ニ申入レタル趣ナル日本鐵道守備兵ノ無賃輸送ノ如キモ實ハ極小數ノ兵カ時々必要ニ應シ鐵道ヲ利用スルニ過キスシテ常時配置セントスルニハ非サリシ由ナリ他方又

東支南部線ニ於テハ既ニ吉林軍カ警備ニ當リ居レリトノ情報ニ接シ居レリト說明シタルニ「カ」ハ更ニ日本軍輸送ニ關スル總括的協定問題ニ言及シ斯ル軍隊ノ繼續的輸送ハ最早單ナル營業的技術的ノ問題ニ非スシテ政治的性質ヲ帶フルモノナルカ故ニ「ポ」條約ニ違反スル事明カナリト繰返シ述ヘタルニ依リ本使ハ所謂總括的輸送協定ノ定義ニ付テハ先程天羽參事官說明ノ通當初當事者間ニ何等カ誤解アリタル模樣ナルモ唯今ノ御說明ニ依リテ益々其感ヲ深クシタルカ其協定問題ハ最早其儘ニ爲シ置ク可ク現在ニテハ日本側ハ全ク之ヲ運輸又ハ技術ニ關スル問題トシテ或種ノ取極ヲ希望スルモノニテ既ニ軍隊ノ輸送カ結了シタル上其運賃其他技術上ノ手續ヲ定メントスルモノナリ故ニ日本側トシ

テハ何ノ範圍迄哈爾賓ノ交渉ニ委ネ得ルヤ蘇側ノ意向ヲ承知シタキ次第ナリト答ヘタルニ「カ」ハ單ニ運賃率ノ如キ技術的協定ニ止マルトスルモ右協定ニ依リテ何時ニテモ軍隊ヲ輸送シ得ル事トナルモノトセハ最早技術的問題ト云フヘカラスト答ヘタルニ付本使ハ軍隊ノ輸送ハ蘇側トノ協議ヲ要スルモ右派遣決定後起ルヘキ運賃支拂ニ付協定シ置カン趣旨ナリト答ヘタリ

次テ「カ」ハ露鮮國境ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯ニ言及シ日本側ノ回答ハ「ポ」條約ニ言フカ如キ相手國ヲ侵迫スル目的ヲ以テ國境ニ軍隊ヲ駐屯スル事實ナシトノコトニテ換言セハ軍隊駐屯ノ事實ハアルモ右ハ相手國ヲ侵迫スルモノニアラストノ意味ニ受取リ得ヘク然ルニ「ポ」條約ニハ明カニ「侵迫スルコトアルヘキ」トアルヲ以テ相手國ヲ侵迫スルヤ否ヤノ點ハ主觀的ニ定ムヘキモノニアラスシテ事實ニ依リ客觀的ニ定メラルヘキモノナリ從テ右回答ハ極メテ曖昧ナリト述ヘタルニ付本使ハ日本側ニ於テハ特ニ露鮮國境ニ軍隊ヲ集結シ居ルヤ否ヤニ付テハ何等ノ報告ニ接セサルカ假令日本軍隊駐屯スルモ恐ラクハ間島警備ノ必要ニ出テタルモノナルヘク他方蘇側ニ於テモ同國境ニ軍隊ヲ集結シツツアルニアラスヤト答ヘタリ

次テ「カ」ハ日本側ノ回答ハ例ニ依リ發表シ度キ意嚮ナルカ其結果ハ軍隊ノ移動ヲ確認シ又兩國ノ條約上ノ見解不一致ヲ暴露スルコトトナリ徒ニ人心ヲ刺戟シテ不安ノ空氣ヲ釀成スル虞アルカ故ニ此際斯ル不安ノ空氣ヲ除去シ又條約上ノ解釋ヲ一致セシメンカ爲ニ雙方政府ノ訓令ヲ得テ虛心坦懷ニ意見ノ交換ヲ行フコトトシテハ如何漁業問題ニ付テスラ兩國ハ虛心坦懷ノ意見交換ヲ有益ト認メテ商議ヲ開始シタル程ナレハ本問題ノ如キハ軍事上政治上極メテ重大ニ二字分アキ且動モスレハ

第三者ヨリ揣摩臆測セラレ得ヘキ問題ニ付テハ猶更有益ノコトナルヘシト繰返シ切言セルニ付本使ハ不安ナル空氣ヲ除クコトハ本使當然ノ任務ニシテ訓令ヲ待ツ必要ナク又條約上ノ見解ニ付テハ日本政府ヨリ既ニ訓令シ來リタルカ右範圍內ニ於テハ何時ニテモ商議シ得ヘシ尤モ不安ナル空氣ト云フモ日本ニハ少クモ斯ル空氣ナカルヘク右ハ唯莫斯科ノミノコトニ非スヤ例ヘハ二日「イズウエスチヤ」社說ヲ見ルニ本使トシテ遺憾ニ堪ヘサルコト多シ就中特ニ日本有力者ノ陳情書ナルモノヲ引用シテ日本ニ於テハ早キニ及ン

テ蘇聯ニ要撃スヘシトノ意見アルコトヲ強調シタル後右ノ如キ事實アルカ故ニ蘇側ハ極東ニ増兵セリト云フカ如キハ如何ニモ（脱）ナリト指摘セシニ「カ」社説ハ憲兵隊長タル秦將軍政友幹（ママ）事長タル久原氏ノ如キ有力者ノ意見ニ依リテ反映サルル日本側ノ空氣ニ答ヘタルモノナリ兎ニ角此際斯ル空氣ヲ除クカ爲何等カノ方法ヲ講シ以テ國交ノ親善ヲ計ルコト肝要ナリト述タルニ付本使モ國交ノ親善ノ増進ニハ勿論同感ナレハ貴方ニ於テ何等具体案アラハ指示アリタシト附言シ置ケリ「カ」ハ正十一時當方ヨリ辭去セリ

在歐米各大使、聯盟、奉天、哈爾賓ヘ轉電セリ

林関東庁警務局長より
永井外務次官
堀切（善次郎）拓務次官　宛

245　昭和7年3月14日

李紹庚新中東鉄道督弁による中東鉄道刷新計画について

關機高第二七七七號ノ二　（3月19日接受）

昭和七年三月十四日

關東廳警務局長

拓務次官殿
外務次官殿

東鐵將來ノ刷新計畫

東北交通委員會ノ消息ニ依レハ莫德惠ノ後任トシテ新タニ東鐵督辨ニ任命セラレタル李象庚（紹カ）ハ交通委員長丁鑑修ノ電召ニ依リ本月六日奉天ニ來リ東北鐵道網計畫及東北鐵路輸送ノ改良及聯運等ノ會議ニ出席シタル外臧省長丁委員長等ト省公署ニ於テ**ソヴエート**對東鐵ニ關スル件並ニ人員更迭ノ辨法ニ付協議シ且赤露カ該鐵道ヲ中心トシテ滿蒙政策ヲ改變シ居ルコト及新國家ノ建設等ニ付研究ヲナシ尚該路ノ近況報造（告カ）ヲナス等八日午後迄連日會議ヲナシタル由ナルカ今該鐵路カ此後採ルヘキ方針及該路ノ改良計畫ニ付キ聞クニ其ノ重要ナルモノ左記ノ如シ

一、ソ聯人幹部更迭ノ際ニ乗シ支那人側ノ理事以下ノ重要職員モ新國家人物ト更迭セシムルコト

一、東鐵ノ行政ニ對シテハ務メテ新國家ノ產業經濟化方針ニ基キ**ソヴエート**ノ根本方針ヲ刷新スルコト

一、東支線ハ東亞國際ノ重要幹線ノ一ニシテ且ツハ日露國交ニ重大ナル關係アルヲ以テ務メテ兩國ノ感情ヲ融和セシメテ衝突ヲ避ケ新國家ノ經濟力ヲ發揚スルコトニ努ムルコト

一、東鐵ハ如何ナル時機場合ト雖モ極力戰爭渦中ニ入ル事ヲ避ケ以テ以外ノ損失ヲ免ルルコト

246　昭和7年3月(24)日　在ハルビン大橋総領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

中東鉄道旗を満州国旗およびソ連国旗を使ったものに改める中東鉄道満州国側案にソ連側同意について

ハルビン　発
本　省　3月24日後着

第三三〇號

一、二十三日東支新督辨李紹庚ノ談ニ依レハ最近同人ニ於テ東支ノ旗ヲ新國家ノ旗ニ蘇聯ノ旗ヲ扱ラヒタルモノニ變更シ蘇側ノ同意ヲ求メタル處直ニ同意シ尚新國家ノ任命セル督辨及理事ヲ承認シタル事實ニ鑑ミ蘇聯ハ事實上新國家ヲ認メタルカ如キ形ヲ呈シ居リ尚近來蘇側ハ五十數臺ノ機關車及五千輛前後ノ貨車ヲ沿海州内ニ引込ミタルニ付李ヨリ交渉ノ結果貨車ノ方ハ弗々（ママ）返還シツツアルモ機關車ハ尚其儘ナリ更ニ鐵道材料ヲ運搬セントスル形跡アリタルニ付路警處ヲシテ之ヲ阻止セシメツツアル趣ナリ其魂膽ニ付李ノ意見ヲ尋ネタルニ李ハ右ハ蘇側カ兵力ヲ極東ニ移動スルニ必要ナル爲カ若ハ北滿ニ於ケル何等カノ變化ヲ豫想シ今ノ内ニ東支財產ヲ成ルヘク多ク領内ニ引込ミ置カントノ理由ニ依ルニアラスヤト思考スト答ヘタル處本官トシテハ右ハ恐ラク我軍ノ東部線ノ移動ヲ見テ更ニ沿海州ニ進出スル意圖アルカ如ク邪推シ沿海州ニ兵力ヲ移動スル一方我軍ノ輸送ヲ困難ナラシムル爲ナルヤニ思考ス

二、三井出張所長ノ談ニ依レハ最近北滿防穀令ノ結果小麥ノ輸出不可能トナリタル爲蘇聯ノ「エクスポート、フレープ」ハ小麥ノ買附ニ際シ三井ノ名義借用方ヲ申出テタルモ軍部ト相談ノ上之ヲ拒絶シタルニ更ニ現品ト引換ヘ拂ヒノ條件ニテ日本若ハ上海渡ニテ百五十萬圓見當ノ麥粉ヲ註文シ來リ目下右諾否考慮中ナル趣ナリ

露、支、北平、奉天、浦潮、長春ニ轉電セリ

247　昭和7年3月28日　在ハルビン長岡(半六)総領事代理より芳沢外務大臣宛

中東鉄道満州国側による中東鉄道財産保護弁法の制定について

普通第一五七號　（接受日不明）

昭和七年三月二十八日　在哈爾賓　總領事代理　長岡　半六

外務大臣　芳澤　謙吉殿

東支財産保護辦法制定ニ關スル件

「ソ」聯側ノ東支鐵道機關車、貨車等露領内搬入ニ關シテハ既電ノ次第アル處本月二十五日當地漢字紙ニ依レハ滿洲國側ニ於テハ今般別添東支鐵道財産保護辦法ヲ制定シ路警處ヲシテ即日實施セシムルコトトナリタル由ナリ

右報告申進ス

本信寫送付先

在中華民國公使　在北平參事官

在奉天　長春　齊々哈爾　滿洲里各總領事領事

（別　紙）

（譯　文）

東支鐵道財産保護辦法

(一)東支鐵道總工廠ニ現存スル各種車輛及材料廠ニ現存ノ材料及沿線各驛ノ車輛、材料等ハ夫々該區管轄ノ警察官責任保護ノ下ニ統轄セラレ必要アル時ハ警官ヲ派シ監視セシム若シ車輛、材料ノ搬出搬入ヲ爲サントスルトキハ路警處ニ許可申請ヲ爲スヲ要シ處ヨリハ調査局ニ命シテ正當ナル理由アルヤ否ヤヲ審査ノ上發車ヲ許可シ然ラサルトキハ運行ヲ制止ス

(二)調査局ノ證明ヲ得タル車輛ヲ他驛ニ運送スル場合ハ發驛ノ路警ハ車輛ノ番號種類ヲ本處ニ報告シ本處ハ更ニ之ヲ着驛ニ通知シテ車輛保護ノ目的ヲ達シ外運ヲ防クヘシ

(三)各驛運送所用ノ車輛ハ各驛路警處及同調査員之ヲ調査シテ許可ス、若シ不正當ナル運行ト認メタル場合ハ發車ヲ許サス

(四)各驛ノ路警處ハ他驛ヨリ車輛、材料等到着ノ場合ハ警官ヲシテ車輛番號、材料數目等ヲ檢査セシメテ運轉ノ監視ニ便ナラシム

(五)滿洲里、緩(綏)芬河兩驛ハ國境ノ重要通路ナルヲ以テ路警處ハ特別注意ヲ爲スヲ要シ若シ車輛或ハ材料等國外ニ搬出ノ際ハ該驛調査長及滿洲國人係員ハ之ヲ檢査ノ上當該驛長ニ向テ說明シ出境セシムルカ或ハ之ヲ制止ス

(六)本規則ハ東支鐵道財産保護ノ目的ニヨリ制定セラレタルモノナルニ依リ其責任ハ重且大ニシテ各驛路警官ハ苟クモ職務ニ怠慢ナルヘカラス若シ然ラサルトキハ法ニ依リ處罰スヘシ

248　昭和7年3月30日　在滿州里山崎(誠一郎)領事より芳沢外務大臣宛

中東鉄道車輛のソ連領内引入れ問題について

機密公第一〇八號　（接受日不明）

昭和七年三月三十日　在滿洲里領事　山崎　誠一郎

外務大臣　芳澤　謙吉殿

東鐵運轉材料ノ蘇聯引入ニ關スル件

滿洲事件發生以來蘇聯邦カ極秘裡ニ多量ノ東鐵運轉材料ヲ蘇領ニ引入レ多大ノセンセイションヲ起シ居ル次第ハ屢次拙信ヲ以テ報告ノ通ナル處今般當館牒(諜)報者ノ報告ニ依レハ事件以來本月二十八日迄當地經由蘇聯ニ引入レラレタル東鐵運轉材料ハ左記番號ノ機關車大型三十八輛小型五輛計四十三輛ニシテ其他貨車百數十輛ニ達セリ尚本月二十五日蘇聯行ノ運轉材料等ヲ積載セル無蓋車二十輛哈爾賓ヨリ當地ニ到着セルカ右ハ突如東鐵派遣員ニ依リ蘇聯行ヲ差留メラレ目下當驛ニ停車中ノ趣ナリ

左　記

一、大型機關車番號

一六〇〇	一六一九	一八〇五	一八四四
一六八二	一八三五	一六五二	一六七三
一七三三	一六七五	一八四三	一六三三
一一四五	一八三二	一七五四	一八四五
一七一六	一八二八	一八九〇	一七二五
一六八八	一七四三	一六一七	一六三〇
一六六九	一八三六	一七三〇	一六八四
一六二一	一七二六	一七一三	一八三三
一七三六	一七五八	一七一五	一八二三
一八四一	一六五五		

二、小型機關車番號

二三二八	二三一八	二九一八	二四一五
二〇五四			

右何等御參考迄報告ス

249　昭和7年4月9日　在ハルビン長岡総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道第二松花江鉄橋におけるロシア人による鉄道爆破未遂事件について

ハルビン　4月9日後発
本　省　4月9日後着

第三九六號

陶賴昭分署長ヨリノ電報ニ依レハ第二松花江鐵橋ニ露人數名現ハレ同鐵橋中央部ニ爆彈ヲ裝置セントセルヲ立哨中ノ鐵道守備兵ニ發見セラレ一名射殺一名ハ逮捕殘餘ハ逃亡シタルカ目下被逮捕者ニ付老少溝守備隊ニ於テ取調中ナル由ナルカ當地ニ於テハ右ハ八日夜十二時頃ノコトニシテ犯人ハ支那人ナリトノ說モアル處今九日朝着ノ長春發列車カ午前二時過迄遲延ノ筈ナルコトモ之ト關聯アルモノト思ハル

露、支、北平、奉天、吉林、長春ヘ轉電セリ

齊々哈爾、滿洲里ヘ暗送セリ

250　昭和7年4月18日　在ハルビン長岡総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道西部線によるハルビンからチチハルへの我が軍輸送について

ハルビン　4月18日後発
本　省　4月18日後着

第四二三號

往電第四二二號ニ關シ

十六日朝當地發齊々哈爾ニ向ヒタル天野旅團輸送ハ我軍ノ東支西部線利用ノ最初ノモノナル處東支側ニ於テハ右輸送ニ關スル我軍側ノ準備ニ懸ル列車提供方ヲ殆ト卽時ニ應諾シタル趣ニテ特務機關側ニ於テハ右ハ往電第四〇五號東部線列車事故發生直後ナル此際從來ノ如ク愚圖愚圖スルコトハ甚タシク我方ノ感觸ヲ害スルニ至リ面白カラストナシタルニ基クモノナルヘシト觀測シ居リ一方蘇聯邦ニ於テハ兩三日來東支關係各種團体ノ政治的會合開催ヲ禁止シタリトノ說傳ヘラレ居レリ

露、支、北平、奉天、長春ヘ轉電セリ

251　昭和7年4月18日　在ソ連邦広田大使より芳沢外務大臣宛(電報)

ハルビンにおける中東鉄道被解雇白系露人デモの背景に日本側陰謀ありとするイズヴェスチャ紙の報道について

モスクワ　4月18日後発
本　省　4月19日後着

第二六六號

十八日ノ新聞ハ十六日北平發「タス」トシテ同日哈爾賓ニ於テ武裝者ヲ交ヘタル四百名ノ白黨カ東支ヨリ解雇セラレタル者ニ對スル手當請求ヲ名トシ同社前ニ「デモンストレーション」ヲ行ヒ蘇側幹部ニ對スル罵詈暴言ヲ放チツツ當時不在ナリシ「クズネツオフ」副理事長ノ事務室ニ闖入シ書類ヲ搔廻シタルカ支那警察及東支護路兵ハ之ニ對シ何等ノ取締ヲ爲サス又白黨ノ一團カ此ノ暴動前街上ニ「クズネツオフ」ヲ見付ケ之ヲ襲擊セントシタル場合モ亦支那警察ハ唯拱手傍觀シタリシ旨ノ報道ヲ揭ケタルカ「イズヴエスチヤ」ハ之ニ付「プロウオケイション」ト僞ノ連鎖ト題スル社說ヲ揭ケ之亦日本側ノ陰謀ナリトテ大要左ノ通論セリ

白黨今回ノ暴行ハ連續セル「プロウオケーション」ノ一鎖。環ニ過キス白黨カ東支ニ爆破ヲ企ツルカト思ヘハ日本及白黨新聞ハ在滿蘇聯邦人及蘇聯反對ノ宣傳ヲ爲シ今又白黨ハ東支本社ノ襲擊ヲ行フ憎ムヘキ斯カル「プロウオケーション」ノ遣リロト目的ハ明カナリ在哈爾賓蘇聯總領事館捜索計畫ノ風說行ハレテヨリ僅ニ數日ニシテ日本軍閥ハ白黨ノ手ヲ借リテ「クズネツオフ」ノ事務所ヲ捜索セリ之ト同時ニ蘇側カ丁超李杜及馬占山等ニ對シ援助ヲ與ヘ居ル旨ノ虛報盛ニ傳ヘラレツツアリ滿洲事件ニ對スル蘇聯ノ不干涉政策ヲ以テ計畫實行ノ妨碍ト爲ス日本軍閥ハ蘇側ノ平和政策ヲ攻擊シツツアリ日本軍部ハ軍事的紛爭ノ範圍ヲ擴大セント欲スルモノナリ吾人ハ曩ニ日本ノ對滿政策ノ鼓吹者カ白黨ノ反蘇行爲ニ對スル責任ヲ免ルルコト能ハサル旨ヲ論シタルカ彼等ハ又哈爾賓ニ於ケル白政府(編注)今回ノ暴行ニ對スル責任ヲ免ルルコト能ハサルナリ日本ノ輿論ハ果シテ滿洲ニ於ケル事態ヲ正解シ居ルヤ又一部冒險者流カ日本ヲ何處ニ引摺リ込マントシツツアルヤヲ知ルヤ軍事行動ヲ擴大セントシツツアル日本軍閥ハ新聞ヲシテ永キ間蘇聯ノ平和政策ヲ僞リ傳ヘシムルト共ニ蘇側ノ立場ヲ一切揭載セシメス現

ニ最近ニ於ケル蘇側ノ打消又ハ「イズベスチヤ」ノ論説等ヲ掲載シ居ル新聞無シ斯ノ如キハ日本ノ指導階級カ如何ナル計畫ヲ有スルヤヲ疑ハシム日本政府筋ニ於テ同國ハ戰爭ヲ爲シ居ルモノニ非ス又戰爭ヲ行ハントスルモノニ非ス聲明シ居ルカ反蘇軍事宣傳ヲ行ヒ又ハ反蘇讒誣ヲ宣傳シテ蘇側ノ眞意ヲ傳ヘシメサルハ如何ナル理由ニ依ルヤ之日本カ軍事上ノ侵略ヲ更ニ擴張スル爲輿論ヲ準備セントスルモノナルコト明カナリ

哈爾賓ニ轉電シ哈爾賓ヨリ支奉天長春ニ轉電セシム

編　注　「政府」の箇所に「黨」と書込みあり。

252　昭和7年4月19日　在ハルビン長岡総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

第二松花江爆破計画に加わったとの容疑による中東鉄道ロシア人職員逮捕に対し同鉄道ロシア人職員が大規模なストを計画中との風説について

ハルビン　4月19日後発
本　省　4月19日後着

第四三〇號

往電第三九六號第二松花江鐵橋爆破計畫ニ關聯シ特區警察管理局ニ於テ四月十三日東支從業員タル約三十名ノ「ソ」聯人ヲ逮捕シ目下取調中ナル處（在露大使發閣下宛電報第二五〇號(六)參照）之ニ憤慨シタル赤系從業員等ハ明二十日ヨリ東支全線ニ亘リ總罷業ヲ敢行シ列車ノ運行ヲ停止セントシツツアル旨相當確實ナル情報アリ軍側ニ於テハ萬一ノ場合ニハ滿鐵側トモ聯絡シ必要ナル處置ヲ講スヘク手配濟ノ模様ナリ

露、支、北平、奉天、長春、滿洲里、齊々哈爾、浦潮ヘ轉電セリ

253　昭和7年4月21日　在ハルビン長岡総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

中東鉄道被解雇白系露人によるデモ問題につき同鉄道副理事長に事実確認について

ハルビン　4月21日後発
本　省　4月21日後着

第四三八號

閣下宛在露大使發電報第二六六號ニ關シ

二十日本官主催廣瀬師團長歡迎宴ノ席上右事件ノ經緯ニ付「クズネツオフ」理事ニ問質シタル處右ハ久シク懸案トナリ居リタル解雇東支鐵道從業員退職資金支給問題ニ關聯シ彼等非解雇者(編注)ノ一部ハ東支現在ノ經濟的窮狀ヲ諒トシ居ルモ他ノ一部白系分子ハ何者カノ裏面的煽動ヲ受ケ再ヒ右要求貫徹ヲ名トシ暴動的行動ニ出テタルモノニシテ彼等カ理事室ニ闖入シ机、書棚等ヲ開キ公文書ヲ搔廻シタルハ事實ニシテ自分トシテハ右ノ如キ行爲ニ對シ支那側官憲ニ鎭壓方要求スヘキ筋合ナルコトハ承知シ居ルモ其ノ効果覺束ナシト思考セルヲ以テ李督辨ニ對シ本事件ノ經過ヲ報告シ責任ヲ問ヒタル處李ハ右ニ對シテハ自分（李）ニ於テ責任ヲ負フヘキ旨答ヘタリト語レリ

當地ニ於ケル前記ノ如キ退職資金支給示威運動ハ既ニ昨年以來數回ニ亘リ繰返サレ今回ノ分モ單ニ斯ル示威運動カ幾分亂暴ニ亘リタル迄ノコトニシテ裏面的指嗾云々ノ如キ事實無キコト勿論ナリ

露、支、北平、奉天、長春ヘ轉電シ吉林滿洲里、齊々哈爾ヘ暗送セリ

編　注　「非」の箇所に「被」と書込みあり。

254　昭和7年4月25日　在ハルビン長岡総領事代理より芳沢外務大臣宛(電報)

昨今の中東鉄道に対するテロ行為について

ハルビン　4月25日後発
本　省　4月25日後着

第四五八號（極秘）

在露大使來電ノ次第モアリ既報ノ分ト重複ノ點ハアルモ左ノ通リ電報ス[1]

(一)東支鐵道線路上ニ於ケル「テロ」關係事件トシテハ(イ)四月一日哈爾賓驛ニ於ケル爆藥携帶ノ露人ノ逮捕(ロ)第二松花江鐵橋爆破計畫(ハ)四月十二日東部線爆藥裝置事件(ニ)同日同シク東部線ニ於ケル我軍用列車顚覆ノ四アリ

(二)(イ)ノ爆藥携帶露人ハ東支鐵道附屬印刷工場勤務者ニシテ當時鞄ノ中ニ爆藥百三十一個並ニ數通ノ秘密書面ヲ所持シ居リ特別區警察管理署ニ於テ取調ノ結果右ハ浦潮方面ヨリ汽車ニテ運搬シ來リタルモノナルコト其他一味徒黨十數名アルコトヲ自白シ十九人ノ逮捕ヲ見タリ同人等ハ

何レモ昨年來青年共產黨員トシテ「ハバロフスク」ニ召集セラレ「テロ」教育ヲ受ケ第一線ノ鬪士タル者ナリ

㈢㈺ノ第二松花江鐵橋破壞ヲ目的トシテ裝置セラレタル爆藥並ニ鐵橋附近各所ニ於テ發見サレタル爆藥ハ小型二百四個大型二百四十三個重量合計三十四、五貫目ニ達シ現場ニ遺棄サレアリタル鐵橋修理ニ關スル契約書副本ヨリ察スルニ犯人等ハ之ヲ番人（當時犯（人）ノ爲射殺サル）ニ示シテ屢々鐵橋ニ出入シタルモノト認メラレ（右契約書副本ハ東鐵監査局第三部主任「オフチニコフ」カ同局備付ノモノヲ持出シタルモノナル形跡アリ同人ハ本件發覺前後ニ於テ特ニ良キ條件ニテ辭職ヲ許サレ目下行方不明ナリ）其他獵銃一挺腸詰八貫目、哈爾賓製ノ麭麵、北滿地圖二枚等ノ遺留品アリ犯行ハ極メテ計畫的ニ爲サレ爆破成功シタル場合ニハ遊獵ヲ粧ヒ支那內地ニ入リテ逃走セントシタルモノノ如シ

㈣㈠ノ東部線爆藥裝置事件ハ第二師團部隊ノ哈爾賓歸還ノ途中ニ於テ損害ヲ與フル目的ヲ以テ

哈爾賓驛東方滿洲里起點九四五「キロ」ノ地點ニ於テ三個ノ黃色爆藥（重量約一「キログラム」半）ヲ「レール」ノ下ニ裝置シアリシヲ支那人工夫ニ發見セラレタルモノニシテ之レニ附屬シタル約一間ノ被覆線ノ末端ニハ擊發信管（獨逸製）ヲ挿入シ下ノ末端ニハ「スキッチ」ヲ附シアリ附近ニハ小型ノ乾電池發見セラレ機關車ノ通過後客車ヲ爆破シ得ル樣裝塡セラレタルモノニシテ相當其ノ方面ノ知識アルモノノ所爲ト認メラル

㈤㈡ノ軍用列車脫線顚覆事件ハ前項爆藥裝置ノ場所ヨリ遠カラサル地點ニ於テ「レール」ノ大釘ヲ取リ外シ機關車ノ重量ニ依リテ「レール」ヲ押シ開カシメ客車ノ轉覆ヲ計リタルモノナルカ（更ニ爆藥ヲモ裝置シアリタリトノ說アルモ確カナラス）其ノ結果顚覆セル車輛積込ミノ我軍自動車隊自動車ノ「ガソリン」ニ點火シ多大ノ損害ヲ生スルニ至リタルモノニシテ右ハ從來共產黨員常套ノ方法ナルノミナラス同地點ハ露支紛爭當時嘗テ同樣方法ニ依リ列車ノ事故發生ヲ見タル地點ナル由ナリ

㈥以上述ヘタル處ニ依リ各種事件ニハ夫々勞農共產黨員ノ關係シ居ルモノト推斷シ得ル次第ナルカ更ニ㈤㈡ニ使用セラレタル爆藥ハ何レモ㈠ノ押收爆藥ト同一種類ノモノト認メラルルコト（「レッテル」ハ何レモ周到ニ剝キトラレアリタルモ蘇聯製品ト推測セラルル由）ハ更ニ共產黨員ノ仕業ナリトノ感ヲ强カラシム特別區警察監理局ニ於テハ本邦人顧問主トナリ憲兵隊側並ニ當館警察署トモ密接ナル聯絡ヲ保チツツ引續キ搜查中ナルカ今日迄ノ處犯人ニ關スル確證ヲ擧クルニ至リ居ラス

尙本件「テロ」行爲ニ關聯セル容疑者トシテ四月七日以來同監理處ニ於テ檢擧シタル蘇聯國籍人數ハ六十名ニ達シ其ノ大部分ハ東支鐵道ノ從業員ナリ

大臣、支、北平、奉天、浦潮、長春ニ轉電シ吉林、齊々哈爾、滿洲里、間島ニ暗送セリ

255　昭和7年5月13日　在ハルビン長岡總領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査員に対する李紹庚督弁代理の中東鉄道概要に関する説明について

ハルビン　5月13日後発
本　省　5月14日後着

第五一二號
吉田ヨリ

第一二六號

十二日東支鐵道督辨代理李紹庚ハ委員トノ會見ニ於テ東支鐵道露支共管ノ意義、理事會ノ組織及權限、利益金處分問題等ヲ說明シタル後露支及奉露兩協定ニ於テ支那側ニ屬スル權益ハ總テ滿洲國ニ於テ之ヲ引繼ク可キ事、鐵道警備ハ護路軍及巡警ニ於テ之ニ當リ居リ前者ハ滿洲國政府、後者ハ鐵道ニ屬シ居ル事等ヲ說明シ最後ニ最近ノ東支從業員各種問題ニ關聯シ質疑應答アリタリ

露、支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、聯盟ニ轉電セリ

256　昭和7年5月26日　在ハルビン長岡總領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

中東鉄道各線の運行状況について

ハルビン　5月26日後発
本　省　5月26日後着

第五七七號
東支鐵道運轉現況左ノ如シ

一、東部線ハ往電第四八六號第二項帽兒山以東不通トナリシ以來斷續的ニ反吉林軍ノ爲メニ破壞セラレ極メテ不良

ノ狀態ヲ續ケ殊ニ本月上旬村井旅團ノ當地ヘ引揚途中ニ於テハ反吉林軍ノ起重機使用等ニ依ル組織的破壞盛ンニ行ハレタリシカ本月中旬第十四師團寧古塔方面出動以來狀態稍々良好トナリタルモ現在旅客列車ハ尙哈爾賓一面坡間ニ運轉セラレ居ルニ過キスソレヨリ以東ハ海林迄時々ハ我軍用列車ノ往復アルモ途中相當ノ警戒ヲ要シ現ニ二十三日「ヤブゴニヤ」驛附近ニテ東支從業員家族ヲ載セタル避難列車ニ衝突事故起リ死者三十余名ヲ出シタル程ナルカ東支當局ハ全線運轉開始ニ焦慮シ居ル趣ナリ

二、西部線ハ往電第五四五號廟台子驛ニ於ケル二邦人拉致事件發生以後引續キ一回匪徒ノ襲來アリ當館並ニ軍側ニテ當地ヨリノ本邦人乘車ヲ差止メ滿洲里、齊々哈爾方面ヨリノ邦人旅行者ハ洮昂線ニ乘換ヘ手配中ナルモ列車ハ平常通リ運轉セラレツツアリ

三、南部線ハ時ニ延著等ノ故障ヲ見ルモ之亦平常通運運轉中ナリ

露、支、北平、奉天、浦潮、長春、齊々哈爾、滿洲里ヘ轉電セリ

257　昭和7年5月30日　在ハルビン長岡総領事代理より斎藤外務大臣宛(電報)

反吉林軍による中東鉄道車輛襲撃について

ハルビン　5月30日後発
本　省　5月30日後着

第五九〇號

二十八日反吉林軍約百五十哈爾賓ヨリ約八十「キロ」ノ地點ニ於テ列車ヲ襲擊シ備附ケノ器具旅客荷物ヲ掠奪セル外鐵道從業員露國人三名及乘客約二十名ヲ拉致セル趣ナルカ右ハ從來專ラ內鮮人ヲ襲擊掠奪ノ對象トシ蘇聯側ニ對シテハ成ルヘク好意ヲ繫カント努メ來レル筈ノ同軍カ漸次統制力ヲ失ヒ東支關係赤系露人ニ迄手ヲ延ハスニ至レルモノニシテ其ノ土匪化セルヲ表示スル一適例ナルヤニ認メラル

露支北平奉天長春ヘ轉電セリ

吉林齊々哈爾滿洲里ヘ暗送セリ

258　昭和7年6月1日　在ニュー・ヨーク堀内総領事より斎藤外務大臣宛(電報)

中東鉄道問題に対するソ連側の強硬的姿勢を米国世論は必ずしも支持せずとするクリスチャン・サイエンス・モニター紙の報道振りについて

ニュー・ヨーク　6月1日後発
本　省　6月2日前着

第九四號

二十七日「クリスチヤン、サイエンス、モニター」ハ同紙ノ哈爾賓通信ニ依レハ露國ハ日本ノ支持ヲ受クル滿洲政府カ舊奉天政府ノ繼承者トシテ東支鐵道收益ヲ從來通リ露滿間ニ折半セン事ヲ提議シタルヲ拒絕シタル由ナルカ現在同國軍ノ西比利亞大動員ハ右ノ如キ對日强硬政策ヲ支持セントスル目的ヲ有シ居ルモノニシテ其爲同國カ又米國輿論ノ暗默的後援ヲ期待シ居ル事モ疑問ノ餘地無シ然レトモ露國カ米國輿論ハ滿洲政府ノ右鐵道收益獲得ノ場合其軍隊ヲ滿洲ニ侵入セシムル事ヲモ許スモノト考フルハ大ナル誤ナリ蓋シ米國ニ於ケル現在ノ日本恐怖カ露國贔負ヲ意味スルモノニ非サル事ハ一九二一年日本ノ西比利亞出兵ノ際露國ハ「シンクレア」石油會社ニ阿諛シテ米國ノ露國承認ヲ促進セント希望シタルモ米國ハ直ニ其露國不承認ノ政策ヲ確認シ別ニ外交手段ニ依リ日本ノ撤兵ヲ慫慂シタル事例ニ徵シテモ明ナリ今日露國ハ一九二一年當時同樣日米關係ノ間隙ヲ利用シ其承認要求運動ヲ試ミ居ルカ米國トシテハ同問題ハ日露爭議ヲ離レ問題自体ノ「メリツト」ニ依リ決定スヘキモノニシテ從ツテ露國ハ右鐵道收益問題ニ付テモ滿洲政府カ同地方人民ノ意思ニ合致スルモノナル事カ證明セラレタル場合ニハ「スチムソン」ノ所謂侵略ニ依ル結果不承認ノ政策ハ別トシテ奉天政府ノ繼承者トシテ之ト協定スルヲ適當トスト論シ

又二十八日ノ「イーヴニング・ポスト」ハ先般英國外務政務次官カ英國ハ支那政府ノ參加セサル支那ニ關スル圓卓會議開催ハ全ク不可能ニシテ且同會議開催ノ場合ニハ其議事ハ聯盟決議ニ依リ支配セラルヘシトノ聲明ヲ爲シタルハ侵略ノ結果不承認ノ政策ニ一致スルモノナルカ滿洲ニ關スル限リ日本ノ決心ハ强固ナルヲ以テ列國ハ何等手ノ出シ樣無カルヘシト論セリ

259　昭和7年6月6日　在ハルビン長岡総領事代理より斎藤外務大臣宛

中東鉄道退職者問題に関する経過報告書入手

について

機密第三五七號　　（6月16日接受）

昭和七年六月六日

在哈爾賓

總領事代理　長岡　半六〔印〕

外務大臣子爵　齊藤　實殿

東支鐵道退職者手當等ニ關スル件

首題中東鐵路退職者ニ對スル拂戻金、積立金、退職手當、恩給等東支側ノ仕拂フヘキ金額ニ付東支側ニ於テハ之ヲ一時ニ仕拂フハ其莫大ナル額ニモ顧ミ事實不可能ナリトシテ從來之カ仕拂要求ニ應セス種々辨法ヲ考案シタルモ退職者側ヲ滿足セシムルニ至ラス紛爭ヲ續ケ來リ遂ニ最近理事會建物ニ闖入暴行ヲナシ更ニ數回示威運動ヲ決行セル處本件ニ關シ東支ノ現時ノ財政狀態ヨリ前記手當等ヲ一時ニ仕拂フヲ困難ナリトスル東支側事情ハ眞實ナルヘキモ而モ退職者ノ詮考及右手當等仕拂ノ遲延等ニ付蘇聯側ノ利益ヲ考慮セル結果ニ出ツルト思ハルル節モ數多アルハ否ミ難キ次第ナルカ今回當地特別區警察管理處側ヨリ同處長王瑞華發甘粕警務司長宛本件經過報告書寫入手シタル處右報告書ハ本件ニ關スル同處側ノ取リ來レル措置ヲ詳述シ居ルニ付曩ニ在露大使ヨリ閣下宛電報ヲ以テ蘇聯側新聞ノ警察當局ノ取締振リニ對スル記事報告ノ次第モアリ何等御參考迄ニ複寫作製ノ上茲ニ一部送付ス御査閲相成度

本信寫送付先　在露大使　在中華民國公使度在北平參事官　在奉天　長春　齊々哈爾　滿洲里各總領事領事

中東鐵道退職問題ノ經過概要

一、遠　因

一九二九年露支紛爭ニ際シ露國ハ支那ニ對抗スル爲メ露人側鐵道從業員ニ對シ罷業ヲ密令スル所アリシモ約二千數百名之ニ應シテ怠業シ又ハ歸國セルヲ除クノ外他ノ一般從業員ハ支那側ヨリ嚴罰ニ處セラルルコトヲ恐レ依然職務ヲ繼續セルヲ以テ露國側ノ企圖スル同盟罷業ノ目的ヲ達シ得サリシニ鑑ミ同年末哈府協定成立シ露國側カ有利ノ條件ヲ獲得スルヤ露支紛爭當時自國ノ政策遂行ニ障害ヲ與ヘタル此等從事員ヲ逐次淘汰シ之ニ代ユルニ自國

内ノ共產黨分子就中軍事教育ヲ終了セル青年黨員ヲ以テ補充シ他日ニ備フルノ準備ヲ進ムル所アリ斯クシテ一九三二年ノ初頭ニ於ケル解職者ノ數ハ實ニ六千名ノ多數ヲ算スルニ至レリ而シテ之等解職者國籍ハ勞農國籍露人主部ヲ占メ次ハ支那國籍露人並ニ支那人ナリ此等解職者ハ永キハ二十數年短キモノモ十年內外ノ勤務者大部ヲ占メアルカ彼等ハ在職中規定ニ基キ共濟貯金積立金ノ拂戻（退職後二週間以內）鐵道補給積立金（退職後一ケ月以內）並ニ退職手當、恩給其他ニ於テハ多キハ數万金留尠キモ數百金留ノ支給ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ナルヲ以テ彼等退職者ハ此等ノ金錢ヲ以テ老後ノ計ヲ立テンカ爲メ或ハ借家ヲ建テ或ハ商業ヲ營ミ或ハ他國ニ移住スル等畫策スル所アリシニ不拘中東鐵道會社ニ於テハ特殊關係者（共產黨トシテ有用人物）少額受領者ヲ除クノ外ハ種々ノ口實ヲ設ケテ之カ支拂ニ應セス僅カニ二ケ月分乃至三ケ月ニ百金留程度ノ支拂ニ應スルニ過キサル情況ナルヲ以テ退職者ノ豫想セル前記老後ノ計ヲ立テ得サルノミナラス日々ノ糊口ニモ支障ヲ生スルニ至レル次第ナルカ一九二九年末ヨリ今日ニ至ル迄退職者ニ支拂ヲ要スヘキ總額概算ハ九百万金留ノ內支拂ヲ了シタルモノ現金三百万金留薪、板、其他材料ニテ支拂ニ代ヘタルモノ一百万金留計四百万金留ナリト稱セラルルヲ以テ未拂金五百万留ト概算シ得ヘシ

而シテ中東鐵道ニ於テハ前記金額ノ支拂困難ナル理由トシテ鐵道所有現金ノ不足ヲ理由トシアルモ積立金ノ如キハ之ヲ他ニ流用シ得サルノ規定アリテ中東鐵道側ノ口實ハ正當ナル理由トナラサルノミナラス露國側ハ政策的ニ此等退職者ヲ窮境ニ陷レ其勢力ヲ破壞セント企圖シアルモノト觀察セラル卽チ退職者ノ大部分ハ露國側ノ北滿ニ於ケル政策遂行上ニ障害タルヘキ分子トシテ中東鐵道ヨリ驅逐シタルモノナルヲ以テ此等ニ對シ大金ヲ交付シ經濟的根底ヲ造ラシムルニ於テハ之ニ從ツテ勢力ヲ維持シ得ル結果トナルヘキヲ以テ露國トシテハ有利ナラサルヲ以テ糊口ニモ支障ヲ生スヘキ程度ノ少額宛支拂ノ方法ヲ採リ彼等ヲシテ活動力ナカラシムルノミナラス惹テハ自滅ノ外ナカラシムル策ヲ弄シアルモノト認メラル

斯クノ如クシテ二年餘ヲ經過セルカ彼等解職者ハ物質上益々窮迫ニ陷リ東支管理局ハ勿論東支理事會ニ集合シ之

カ速カナル解決ヲ迫ルコト瀕繁トナリ逐次形勢惡化ノ徵ヲ帶ヒ來レルノミナラス之ヲ放置スルニ於テハ失望ト饑餓ニ迫レル大衆ハ遂ニ節度ヲ失シ如何ナル暴擧ニ出ツルヤモ計ラレス爲之哈爾賓ノ治安維持ノ責務ヲ有スル警察當局トシテ之ニ對スル適當ナル方策ヲ講シ災ヲ未然ニ防止シ以テ國利民福ヲ圖ルノ必要ニ逼ラルルニ至レリ

二、近　況

前述ノ事實ト事由ニ基キ特別區警察管理處ニ於テハ此等ノ危機ヲ事前ニ防止スルノ目的ヲ以テ本年三月一日附第五五五號文書ヲ以テ中東鐵道李督辨及管理局ニ對シ市內ニ於ケル恐ルヘキ危險ト鐵道當局幹部ニ對スル身邊ノ危害ヲ憂慮シ且ツ解職者ヲ慰撫スヘキ途ヲ打開シ彼等ノ容認シ得ヘキ條件下ニ諸給與金ノ支拂ヲ行ヒ問題ノ解決ニ資シ治安ノ維持ニ努メ度旨並ニ右ニ對シ何分ノ回示アリ度旨附記セル書面ヲ送付セルカ李督辨並ニ中東鐵道管理局ニ於テハ何等ノ回答ヲ與ヘサルノミナラス理事會ニ於テハ此等不穩ナル形勢ニ對シ何等應急ノ處置ヲ講スル所ナカリシカ退職者ノ運動モ益々激化スルニ至レルヲ以テ理事會ハ本年三月四日附ヲ以テ別紙ノ如ク三ケ年ヲ經過シテ鐵道ヨリ諸給與ノ拂戻ヲ受クル規程ヲ發表シ一部從業員ハ之ヲ承認セルモ大多數（約三千七百名）ハ之ヲ承認セスシテ尠クモ自己ノ積立金ハ即時ニ返還ヲ受クヘキモノナルコトヲ主張シ理事會側一方ノ意志ニ基ク決定ニ同意シ難キコトヲ明カニセリ

四月二十一日當處顧問八木象次郎カ李督辨ヲ訪問セル際談偶々中東鐵道退職者處分問題ニ及ヒタルヲ以テ顧問ハ本問題ハ單ニ中東鐵道對退職者間ノ問題タルノミナラス惹テハ特別區內ノ治安問題並ニ人道問題ニモ關係ヲ有スルモノト考ヘラルルヲ以テ此際中東鐵道ヲ代表セラルル李督辨トシテハ鐵道側ト退職側トノ相反スル要求ヲ調和按配セラレ不幸事ノ突發ヲ未然ニ防止セラルル樣一段ノ考慮ヲ望ム次第ニシテ吾人ノ觀察ニ依レハ危機ハ逐日逼リツツアルヤノ感ヲ深クシ憂慮ニ堪ヘサル次第ニシテ鐵道側ニモ種々ノ理由アルヘキハ察スルニ難カラサルモ退職側ニ於テモ相當ノ理由アルノミナラス將ニ餓死線ヲ彷徨シツツアルモノ尠カラス表面警察力ヲ以テ彼等ノ不法ヲ取締ルノミニテハ問題ハ解決セサルヘキニ依リ本問題ノ解決ニハ根本問題タル彼等生活上ノ危機ヲ緩和スルノ

方策ヲ講スルニ在リト認メラルルカ貴說ノ如ク鐵道ニハ現金アリトセハ未拂金五百万金留ノ內中東側ノ提案ヲ承認シタルモノヲ除ク殘餘三千餘人ニ對スル三百餘万金留ノ半額程度ヲ一時ニ支拂フモ差支ナカルヘシト考ヘラルルノミナラス現在ノ中東鐵道從業者ハ金留建ノ俸給ヲ受ケアリテ大洋建ノ生活ヲ營ミツツアルヲ以テ生活ニ餘裕アルモノ尠カラサルカ如キヲ以テ若干減俸ニ依リ支拂金ヲ生ミ出スカ又ハ給料ノ一部ヲ公債ニテ支給シ之ヨリ生スル剩餘金ヲ退職者ノ支拂ニ流用スルカ如キ方法ナキニアラサルモノト認メラル、尙ホ個人貯金ノ行衞ニ付キ質問セルニ對シ何等明確ナル回答ヲ與ヘサリシカ種々交涉ノ結果李督辨ハ二週間後各退職者ニ對シ一五〇金留宛支拂ヒ應急ノ處置ヲナスヘキ旨ヲ約セルカ之カ實行ヲ見ルニ於テハ饑餓ニ瀕セル退職者ヲ某程度迄慰メ得ヘク此間ニ中東鐵道幹部退職者代表並ニ警察當局間ニ於テ該問題ヲ研究シ適當ノ對策ヲ發見スルノ餘裕ヲ得セシムルモノト認メタレハナリ

然ルニ二週間後ニ於テ李督辨ハ意外ニモ右提案カ勞農側ノ反對ノ爲メ拒絕セラレタルコトヲ告ケタルヲ以テ之ヲ耳ニセル退職者代表ハ更ニ新要求トシテ左ノ條件ヲ提出セリ

一、本年五月中ニ鐵道ハ其支拂フヘキ諸給與金中

(イ)　個人貯金　(ロ)　個人貯金ニ對スル鐵道積立金

(ハ)　退職手當　(ニ)　病氣救濟金等ノ支拂義務ヲ一時ニ支拂フコト

右諸支拂ニ關シ

(A)五〇〇金留未滿ノ停滯金ハ一時ニ支拂ヲ完了スルコト

(B)五〇〇金留ヲ超過スルモ一、〇〇〇金留未滿ノ停滯金ハ一時ニ五〇〇金留ヲ支拂ヒ殘額ニ對シテハ定期ノ債券證書ヲ發給スルコト

(C)一、〇〇〇金留ヲ超過スル停滯金ニハ一時ニ金額ノ五〇％ヲ支拂ヒ殘額ニ對シテハ定期債券證書ヲ發給スルコト

二、定期債券證書ハ遲クモ一九三二年七月一日迄ニ發給ス、持參人式鐵道委任者署名並ニ鐵道ノ公印アルモノトス

尙證書ニヨル支拂ハ一九三二年十二月三十一日以前タル

ヘキコト（前記期間内ニ於ケル支拂ノ分割ハ鐵道ノ意見ニ委ス）

三、退職金支給問題ニ關シ鐵道ニ對シ訴訟ヲ提起セル者モ無論上記條件ノ支拂ヲ受クルモノトス

四、解職者ニ支給サルヘキ諸支拂金額ニ對シ解職ノ日ヨリ支拂ノ日ニ至ル五％ノ年利ヲ付スルコト

五、鐵道ノ支拂ハ金留トス而シテ退職者ニ支拂ハルル金額ハ支拂月ノ鐵道所定ノ換算率ニ依ルコト

以上ノ要求條件ハ督辨ノ諒解スル處トナリ五月五日ヲ期シ代表ニ對シ督辨ヨリ回答スルコトヲ約セリ。

然ルニ李督辨ハ窃カニ理事金榮桂ヲ新京ニ派遣シ中東鐵道理事三月四日決議ニ關スル承認ヲ得タルノミナラス退職者カ集合シテ前記ノ如キ要求ヲナス場合警察力ヲ以テ之ニ彈壓ヲ加フヘキ旨民政部ノ諒解ヲ得タルカ如シ

サレハ五月五日李督辨ノ回答ニ接スヘク中東鐵道理事會附近ニ集合セル退職者千有餘名ニ對シ李督辨ハ左ノ如ク聲明セリ。

滿洲國政府ハ一九三二年三月四日ノ改正規定ヲ承認セリ、從ツテ四月二十八日退職者代表ヨリ提起セル要求ハ拒絶セラレタルノミナラス萬一集合シテ行動ヲ起スカ如キ場合ニ於テハ警察ヲシテ彈壓ヲ加フルコトトナレリト放言セリ。

依テ屢々李督辨ニ裏切ラレタル代表者ハ勿論退職者群モ大ニ怒リ將ニ大事ヲ惹起セントスルノ形勢トナレルヲ以テ當處ハ極力之ヲ慰撫解散ニ努メ且ツ代表者ヲ管理處ニ招致シ輕擧盲動ヲ戒メ本件ノ解決ニ關シテハ相當ノ盡力ヲ惜シマサルコトヲ約シ極力之カ緩和ニ努メタル結果代表並ニ民衆モ警察當局ノ言ヲ信シ今日ニ至ル迄隱忍シアル狀態ナルモ萬一此等ノ信念ヲ裏切ラルルカ如キ時期到來センカ最早ヤ警察力ヲ以テスルモ此等饑餓ニ迫レル大衆ノ行動ヲ抑制スルコト不可能ニ陷リ哈爾賓市ノ秩序安寧ノ破壞セラルルノ大事ヲ惹起スルノ憂ナシトセス。

然ルニ勞農露國側ハ警察當局ノ治安維持上ノ努力ニ對シテモ種々ノ宣傳ヲ放チ八木顧問ハ白系露人ヲ使嗾シ東支勞農幹部ヲ壓迫シツツアリトカ、退職者給與問題ニ奔走スレハ莫大ナル周旋料ヲ得ンカ爲ナリ等ノ誹謗ヲ逞シクシアルト共ニ彼等ハ自己ノ不法ヲ覆ヒ退職者民衆ニ對シ警察ヲシテ彈壓ヲ加ヘシメ警察ト民衆ヲ衝突ニ誘導シ治安ノ紊亂ヲ企圖シアルカ如キヲ以テ本件ニ關シテハ愼重審議ヲ遂ケ速カニ對策ヲ講スルノ緊要ナリト認メラルル。

以上

中東鐵路退職手當諸給與金支拂規程

（一九三二年三月四日ノ理事會ニテ變更）

第一條　退職者並ニ退職セントスル者ニ支拂フヘキ諸給與金ハ之ヲ左ノ種目ニ分類シ證書ヲ交付スルモノトス

(一)　共濟積立金

(イ)　個人貯金

(ロ)　鐵道支給積立金

(ハ)　傷害其他ニ起因スル失職者救濟金

(二)　退職保證金

(イ)　定員ニヨル退職手當

(ロ)　病氣退職手當

右分類種目ニヨリ證書ハ一九三二年一月一日以前ノ退職ニ對シテハ本規程公布ノ日ヨリ三ケ月間ニ一九三二年一月一日以後ノ退職者ニ對シテハ退職ノ日ヨリ三ケ月間ニ之ヲ交付スルモノトス

第二條　本證書ニハ第四條及第六條ニ準シ各種證書別ニヨリ支拂ヲ異ニスル鐵道所定ノ支拂期ヲ記入スルモノトス

第三條　已ニ鐵道ヲ去レル從業員ニ支拂フヘキ各種給與ハ證書交付ノ日ヨリ起算シ三ケ年内ニ給與金ノ性質ト金額トニ應シ支拂ハルルモノトス。

支拂期ハ一九三二年六月ヨリ始メテ二回卽チ六月及十二月トシ證書面ニハ支拂月日ヲ記入ス

備考　支拂日、休日ノ際ハ其翌日之ヲ支拂フモノトス

第四條　個人貯金ノ拂戻ハ第一期ニ之ヲ行ヒ鐵道支給積立金及ヒ共濟貯金ハ之ヲ第三期ニ退職手當ハ第五期ニ支拂フモノトス

玆ニ定メラレタル期間ニ支拂ヲ受クヘキ金額ハ何レノ種目タルヲ問ハス（卽チ共濟貯金及退職手當）

第六條、規程ノ制限ヲ超過スルヲ得サルモノトス

各種目ノ支拂ハ第六期以上ニ出ツルコトナシ又各人ニ支拂ハルヘキ金額ハ第一期支拂額ヲ常ニ四五〇留ト定ム

個人貯金ノ支拂證書交付ハ第六條備考ニヨルモノトス

第五條　共濟貯金勘定ニヨル個人貯金ニ對シテハ證書交付ノ當日ヨリ四%ノ年利ヲ附スルモ其他ノ支拂金ニハ利子ヲ附セス。

但シ個人貯金ノ利子ハ當該貯金拂戻完了ノ際ニ於テ清算スルモノトス。

支拂金ハ個人貯金（證書作成ノ日ヨリ利子ヲ附ス）

鐵道支給積立金及共濟救助金ノ順序ヲ以テ支給シ鐵道退職手當ヲ最後ニ支給スルモノトス。

第六條　支拂ハ次表ノ通リトス

第一期　三〇〇留　豫定額ヨリ小額ナルカ又ハ殘額小額

第二期　四〇〇留　ナル場合ニハ一時ニ之ヲ皆濟ス

第三期　五〇〇留

第四期　七〇〇留

第五期　八〇〇留

第六期　殘　額

備　考

(A)三〇〇留未滿ノ個人貯金ハ一時ニ之ヲ支拂フ

(S)三〇〇留ヲ超過セル個人貯金ハ證書交付ノ際内二〇〇留ヲ現金ニテ支拂フモ、證書交付二ケ月前ニ現金ニテ支拂ヒタル分ニ對シテハ此二〇〇留ヨリ差引キ支拂フモノトス。

(B)個人貯金證書面ノ金額ハ十留以下ノ端數ヲ附セス九留九十九哥迄ノ差額ハ現金ヲ以テ交付ス。

第七條　鐵道管理局ハ前記各種目ノ證書ヲ作成シ之ニ對スル計算並ニ支拂ヲ登錄スルモノトス。

支拂證書ノ形式ハ理事會ノ認可ヲ要ス

第八條　證書ハ管理局之ヲ發行ス（記名式）

備　考

(A)證書ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ルモ三回以上ニ亘ルコトヲ得ス

(S)證書讓渡ノ都度公證手續ヲ履ムカ或ハ管理局所定ノ中東鐵道關係機關ノ登記ヲ要ス。

(B)前記條件ヲ缺ク證書所持者ニ對シ鐵道ハ其責ニ任セス。

第九條　前記證書ハ保證文書トシ又ハ請負又ハ納入ノ際ニ於ケル供托金トシテ現金ノ代リニ鐵道ニ於テ之ヲ受領ス又鐵道ニ納入スヘキ建築材料及燃料代ノ支拂ニハ其都度管理局ノ同意ヲ得テ本證書ヲ使用スルコトヲ得。

第十條　本證書ハ地方通貨ヲ以テ支拂ヒ其檢算ハ證書ニ指定サレタル當月ノ鐵道所定ノ換算率ニヨルモノトス。（從業員給料）

第十一條　本證書ヲ紛失セル場合ニハ屆出ノ日ヨリ三ケ月間地方新聞ニ公告シタル後副證書ヲ交付シ之カ手數料トシテ金三留ヲ徵ス。

第十二條　本規程實施期ハ鐵道管理局ニ掲示ス。

260　昭和7年6月10日　在長春田中領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

中東鉄道職員給料のルーブルから現大洋払いへの変更説に関し同鉄道職員は反対の模様との情報について

長　春　6月10日後発

本　省　6月10日後着

第二九三號

當方聞込ニ依レハ東支從業員ハ從來金留ニ依リ俸給ノ支給ヲ受ケ來レル處近ク右金留制ヲ現大洋ニ變更ストノ説ヲ聞キ果シテ事實ナリトセハ給料半減斷行ト同樣ナルヲ以テ極度ニ憤慨シ從業員ヲ糾合シテ同盟罷業又ハ其他ノ方法ニ訴ヘ同案撤回ヲ期スヘク目下各地ト聯絡準備中ナル趣ナリト御參考迄

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、滿洲里ヘ轉電セリ

261　昭和7年6月17日　在ハルビン長岡総領事代理より斎藤外務大臣宛

中東鉄道ソ連側幹部引揚説について

機密第四二一號　（6月27日接受）

昭和七年六月十七日

在哈爾賓

總領事代理副領事　長岡　半六〔印〕

外務大臣子爵　齊藤　實殿

東支蘇側幹部引揚説ニ關スル件

最近東支監査會役員「ミーチン」ヲ始メ二、三主要從業員竝其家族ノ歸國ニ關連シ東支蘇側幹部ノ引揚説頻リニ喧傳セラレ居リ右ハ蘇側カ日蘇關係惡化ヲ豫想セル北滿ニ於ケ

ル蘇聯人引揚ノ前觸ナリト取沙汰セラレ居ルモ之ヲ事實ニ徵スルニ當地交渉署ニ就キ取調ヘタル所ニ依レハ年々夏期ニハ從業員ハ休暇ヲ利用シ避暑ノ爲歸國スルモノ多ク本年五月一日以降六月十五日迄ノ蘇聯人出境査證願出人約百七十名ナルカ之ヲ客年五、六兩月ノ合計三百九十名ニ比スレハ本年ハ現在迄ノ處遙カニ少數ニシテ特ニ引揚ノ如キ目立チタル事實ナク從テ前記引揚說ハ根據ナキ浮說ナルヤニ思考セラルル處一方我勢力ノ北滿進出竝ニ我軍行動妨害ヲ目的トスル屢次ノ「テロ」行動ニ基ク滿洲國側ノ共產系人物ノ逮捕及監視ニ依リ活動梗塞セラレ潰滅ニ頻シツツアル狀態ナル蘇聯共產黨運動今後ノ方針如何竝蘇聯ノ對日、對滿政策ニ關連シ當地蘇聯幹部間ニ「ルーデイー」ヲ中心トスル對外硬派ト「クヅネツオフ」ヲ中心トスル穩健派トノ對立ヲ生シ滿洲國側領事ノ蘇聯派駐問題ニ對スルカ如キ妥協的傾向ハ右「ク」一派ノ主張中央ノ容ル所トナリタルニ依ルモノニシテ從テ「ル」ヲ廻ル主要人物ハ一時北滿ヨリ退却スルノ已ムナキニ至リタリトノ說アリテ前顯最近歸國ノ蘇聯主要人物ノ殆ント全部ハ「ル」一派ニ屬スルモノト看做サレ居リ右ノ裏面的事情カ大袈裟ニ傳ヘラレ引揚說ヲ生ミタルモノニ非ヤト存セラル

情報區々タルモノアリテ遽カニ斷定ヲ許ササルモ一應ノ觀察御參考迄報告申進ス

本信寫送附先

在露大使　在中華民國公使　在北平參事官

在奉天　南京　長春　滿洲里各總領事領事

262　昭和7年7月11日　在ハルビン長岡總領事代理より内田外務大臣宛

中東鉄道車輛等のソ連側による引出しに関し施特派員のスラヴッキー特派員に対する抗議について

機密第五〇〇號　（接受日不明）

昭和七年七月十一日

在哈爾賓

總領事代理副領事　長岡　半六

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

蘇聯側ノ東支鐵道運轉材料引出ニ關スル件

本件ニ關シ曩ニ施外交部特派員カ中央ノ訓令ニ基キ當地蘇

聯總領事ニ對シ抗議ヲ提出シタル事實ニ付テハ五月下旬往電ヲ以テ報告申進メ置キタル處施特派員（其後駐哈北滿特派員ト改稱セリ）内報ニ依レハ六月三十日當地蘇聯總領事「スラヴッキー」他用ヲ以テ同特派員ヲ往訪ノ際同特派員ヨリ本件ヲ持出シ滿洲國側抗議ニ對シ何等回答ヲ爲ササル不誠意ヲ詰リタルニ「スラヴッキー」ハ右抗議ニ對シテハ既ニ回答セリ即チ右抗議文ノ手交ヲ受ケタル際東鐵ニ於ケル蘇聯理事ハ東鐵ノ利益ノ爲メニハ常ニ全力ヲ傾倒シ居レリト證明セルニ非ラスヤト答ヘタルヲ以テ施特派員　東鐵ノ利益ノ爲ニ努力シ居ル者ハ啻ニ蘇聯側ノミニ限ラス本官ハ斯ル抽象的ノ事柄ヲ話シ居ルニ非ス曩ニ蘇聯側ノ不法ニ持出シタル機關車其他ノ重要ナル東鐵財產ニ關スル問題ナリ

「スラヴッキー」　機關車等ハ東鐵ノ所有物ニハ非スシテ蘇聯ノ財產ナリ

施　蘇聯ノ財產ナリト斷定シ得ルハ東鐵理事會ノ決議ヲ措イテハ他ニナキ筈ナルニ拘ハラス未タ嘗テ本問題ヲ滿洲國側理事ニ諮リタル事ナク萬事ヲ勝手ニ蘇聯側ノミニ於テ處理裁斷スルカ如キハ極メテ不可解ナリ

「ス」　理事會云々ハ一應取調ヘ見ルヘシトノ問答ヲ爲スニ至リタリシ趣ナリ

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

在露大使　在中華民國公使

在北平參事官　在奉天　長春各總領事領事

263　昭和7年7月30日　林関東庁警務局長より有田(八郎)外務次官宛

中東鉄道の夏期収入欠損は著しく秋期および冬期に回復は不可能との見込みについて

關機高支第一二九一六號　（接受日不明）

昭和七年七月三十日

關東廳警務局長

外務次官殿

滿洲國ノ政情　（八五）

東鐵路警察員ヨリ民政部宛報道ニ依レハ例年六月ヨリ九月迄ハ東支鐵道ノ閑散期ニ屬シ鐵道收入モ減少スルヲ常トスルモ本年度ハ東西兩部線ノ不通松花江沿岸貨物ノ不搬出等

ニ依リ右減收特ニ著シク本月ノ如キ一日平均支出約七萬五千金留ナルニ收入僅カニ二萬五千金留ニ過キス結局月額百五十萬留ノ缺損ヲ見ツツアリ從來夏季閑散期ニ於ケル缺損ハ秋期及冬期ニ於テ恢復シ得タルモ本年度ニ於ケル現狀ニテハ到底覺束無ク從テ毎年夏季ニ行ハルル鐵道ノ各種修復工事モ本年度ハ着手不能ナル爲冬季列車運轉モ相當苦境ニ陷ルヘシトイフ

264　昭和7年8月2日　在ハルビン長岡総領事代理より内田外務大臣宛

中東鉄道の名称変更につき施特派員より謝外交部総長に申入れについて

機密第五八八號　（8月22日接受）

昭和七年八月二日

在哈爾賓

總領事代理副領事　長岡　半六〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

中東鐵路ノ名稱變更方ニ關スル件

今般外交部北滿特派員施履本ハ外交部總長謝介石ニ對シ中東鐵路ヲ北滿洲鐵道ト變更方別紙譯文寫ノ通リ申請セル由ナルカ七月三十日特派員公署員ハ館員ニ對シ本件名稱變更ニ付テハ曩ニ同鐵路督辦李紹庚ヲシテ「**クズネツオフ**」副理事長ニ付内意ヲ探ラシメタルニ別段異存ナカリシ次第ナル處其後中央ヨリ國務會議ノ決定ヲ經タル趣ニテ之カ進行方訓令シ來レルヲ以テ過日李督辦ニ對シ理事會ニ提案方要求シ置キタリ尚中東鐵道ニ關スル事項ハ本來交通部ノ管轄スヘキ筈ナルモ同部ニハ事情ニ通スルモノ鮮キヲ以テ同鐵道ノ人事關係及政治關係等ノ事項ハ外交部ニ於テ處理シ交通部ハ主トシテ技術關係事項ヲ管轄スルコトニ兩部ニ於テ商議濟ナル旨内話セル由

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

在露大使　在中華民國公使　在北平參事官

在奉天　南京　長春　齊々哈爾　滿洲里

（別　紙）

北特第七〇號

大同元年七月二十一日

駐哈北滿特派員

施　履　本

外交部總長

謝　介　石殿

東鐵改名方ニ關スル件

東鐵ハ今日ニ至ルモ依然トシテ從來ノ名稱ヲ其儘冠シ居リ爲ニ之カ滿洲國側東鐵職員ニ對シ事務上及精神上面白カラサル惡影響ヲ及ホシツツアルノ事實ニ鑑ミ別段ノ支障無キ限リ至急同名稱ヲ改ムルノ必要大ナルモノアリト思考セラルル處諸般ノ點ヨリ見テ新名稱ハ同鐵道共同經營者タル當國及蘇聯ノ國名ヲ全ク使用スル事無ク南滿洲鐵道ヲ對照トシテ「北滿洲鐵道」ト改ムル事最モ妥當ト思考セラルルカ之カ實行ニ際シ唯一ノ問題トナリ得ルハ蘇聯側ノ右ニ同意スヘキヤ否ヤノ點ナルカ東鐵ノ史實ニ摘徴スルニ漢文名稱ノ關スル限リハ別紙ノ如ク既ニ數回ニ亘リ訂正セラレ而モ蘇聯側ハ其都度之ヲ承諾シ來リタル前例アリ一方俄文名稱ノ改正ニ對シテモ前記新名稱ハ舊名稱ノ如ク支那國ノ意味ヲ含マサルコトトナリテ蘇聯側ニトリテハ却テ好都合ノ事ト思ハルルモ最近念ノ爲ニ李督辦ヲシテ非公式ニ「**クヅネツオーフ**」副理事長ノ本件ニ對スル意向ヲ訊ネサシメタル處蘇聯側ニテハ別ニ意存（ママ）無キヤノ模樣判明セルニ付テハ本件至急實現方交通部ト御協議ノ上直接李督辦ニ對シ又ハ當公署ヲ經テ同人ニ對シ東鐵理事會ニ於ケル改名提議方御指令相成樣致度右稟請ス

東　清　　查前清光緒二十二年卽西曆一八九六年中國大使李鴻章赴俄賀俄皇加冕與外部大臣維特密約中俄合資創設道勝銀行由銀行發起建立東清鐵路公司締結中俄合辦東清鐵路合同此東清鐵路名詞之由來也

中　東　　光緒二十二年七月訂立合辦合同該合同第一條經理此鐵路另立一公司名曰中國東省鐵路公司此中東鐵路名詞之所由來也

東　省　　按上項合同卽東清鐵路合同惟刊印之合同均載明中國東省鐵路竝無東清字樣

中　東　　民國六年北京政府派吉林省長郭宗熙兼督辦東省鐵路公司事宜民國九年北京交通部續訂管理東省鐵路合同此東省鐵路名詞之由來也

民國十九年一月南京政府特任莫德惠爲中東鐵

路督辨幷奉令將原有東省鐵路名詞改爲中東鐵路

265　昭和7年8月19日　林関東庁警務局長より有田外務次官宛

中東鉄道南部線の満鉄への譲渡説について

關機高第一一〇〇號　（接受日不明）

昭和七年八月十九日　關東廳警務局長

外務次官殿

東支南部線讓渡說

滿鐵會社ニ於テハ將來東鐵南部線買收ノ牽制的政策上ヨリ拉哈線ヲ計畫シ着手ノ件ニ關シテハ屢報ノ處最近東支南部線ノ讓渡說ニ關シテ某有力者ノ語ル處ニヨレハ東鐵側ハ當初金百万圓ニテ讓渡ノ意嚮ナリシモ滿鐵側ハ拉哈線ヲ敷設スルニヨリ高價ナリトテ一顧タニ與ヘサリシ處今次ノ水害其他ノ事情ノ爲東鐵側ハ金五十万圓位ニテ讓渡ノ意嚮ニ傾キ來レル趣ニテ滿鐵側トシテモ東支南部線ハ拉哈線ヨリ運轉時間約二時間ヲ短縮シ得テ拉哈線布設ニ比シ南部線買收ノ方遙ニ有利ナルヲ以テ拉哈線ヲ掛引ニ利用シ金五十万圓以下ニテ交渉成立セシムル意嚮ナルモノノ如ク案外迅速ニ實現スルニ至ルヤモ計ラレスト

以上

266　昭和7年8月31日　内田外務大臣より在ソ連邦広田大使宛（電報）

中東鉄道問題には深入りせぬようにとの訓令

本省　8月31日後7時　分発

第三四二號（極秘）

貴電第五〇三号ニ關シ東支鉄道問題ニ付テハ當方ニ於テモ攻究中ニ属スルモ當方面事情ノ変化ニ伴ヒ対策ノ決定困難ナルニ付本件ニ付テハ深入リセサル様御配慮アリタシ

267　昭和7年9月21日　在ハルビン長岡総領事代理より内田外務大臣宛

ソ連側による中東鉄道車輌等引入れに対する満州国側抗議にソ連側反論について

機密第七六〇號　（接受日不明）

昭和七年九月二十一日

在哈爾賓

總領事代理副領事　長岡　半六

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

件　名

蘇聯側ノ東鐵運轉材料引込ニ關スル件

本件ニ關スル九月十七日附在滿大使宛拙信公領機密第二二號寫何等御參考迄茲ニ送付ス

（別　紙）

公領機密第二二號

昭和七年九月十七日

在哈爾賓總領事代理　長岡　半六

在滿特命全權大使　武藤　信義殿

蘇聯側ノ東鐵運轉材料引込ニ關スル件

本件交渉ノ經緯ニ關シテハ屢次報告申進ノ通リナル處當地蘇聯總領事ハ九月十二日附公文ヲ以テ別紙（譯文）ノ如キ回答文ヲ當地外交部特派員ニ送達シ來レルカ滿洲國側トシテハ先方ノ回答ニ滿足セサルハ勿論ナルモ當分成行ニ任スル方針ナル趣ナリ

本信寫送付先　外務大臣、在露大使、在中華民國公使、在北平參事官、在奉天、長春各總領事

（別　紙）

一九三二年九月十二日駐哈蘇聯總領事發施外交部特派員宛公文

拜啓本年五月二十八日附第一七二號貴翰ニ對シ左ノ如ク回答ス

貴翰中ニ言及セラレ居ル機關車ハ東鐵ニ屬セス從ツテ東鐵ノ財産目錄中ニハ含マレ居ラス此等ノ機關車ハ蘇聯東鐵ニ屬スルモノニシテ曾テ同鐵道ノ爲ニ購入セラレタルモ只「インターヴェンション」ノ爲東鐵ニ滯リ居タルモノニ過キス此ノ論爭ノ餘地無ク且ツ書類ニ基礎ヲ有スル事實ハ東鐵理事會ニモ知レ居リ從ツテ蘇聯政府カ此等機關車ヲ使用シ且ツ處分シ得ルノ權利ヲ有スルコト疑問ノ餘地無カルヘキコトハ東鐵カ蘇聯ノ財産ニシテ北京及奉天協定ニ基キ相方ノ共同管理ニアルノ事情カ論議ノ餘地無キト全ク同様ナリ

一方貴翰中ニ取扱ハレ居ル本問題ハ本官ノ知ル限リ數回ニ

亘リ東鐵理事會ノ會議ニ於テ審議セラレ且理事長李紹庚氏及副理事長「クズネツオフ」氏間ニ於ケル特別交渉ノ題目トモナリ居タル點ニ御注意相成度「クズネツオフ」氏ハ本年四月七日附東鐵理事會々議速記錄ニ見テ明ラカナル通リ貴翰ノ内容トナリ居レル問題ノ眞相ヲ釋明セリ

東鐵ニ於ケル蘇聯側代表者等ハ北京及奉天協定ノ嚴守及忠實ナル履行ニ關スル蘇聯政府ノ指令ヲ確實ニ守リ居リ且ツ事務上ニ於テハ相方ノ完全ナル意見一致ヲ見居ル次第ニシテ之カ充分ナル證左ハ東鐵ニ於ケル双方代表者間ニ於ケル現存ノ問題解決手續キナリ

右ニ明カナルカ如ク貴方ヨリ抗議ヲ申入ルヘキ根據無ク又機關車問題ハ貴翰中ニ持出シ居ラルル貨車及材料問題ト同様ニ混入リタルニ非サル事ハ明カナリ　敬具

268　昭和7年10月29日　在ハルビン長岡総領事代理より内田外務大臣宛

中東鉄道全線にわたるスト計画の風説に関し

在満大使宛通報について

機密第九七七號　（11月8日接受）

昭和七年十月二十九日

在哈爾賓

總領事代理　長岡　半六〔印〕

外務大臣伯爵　内田　康哉殿

件　名

東鐵從業員一部罷業計劃說ニ關スル件

本件ニ關スル十月二十八日附在滿大使宛拙信公領機密第一四〇號寫送付ス

（別　紙）

公領機密第一四〇號

昭和七年十月二十八日

在哈爾賓

總領事代理　長岡　半六

在　滿

特命全權大使　武藤　信義殿

東鐵從業員一部罷業計劃說ニ關スル件

（當館警察署長報告）

本月二十五日ヲ期シ東鐵全線ニ亘ル總罷業說アリシカ右ハ

爲ニセムトスル者ノ虚傳ナルモノノ如ク何事モナク經過シ來リタル處東鐵當局ト從業員トノ間ニ兎角ノ確執アル趣ヲ傳ヘラレ之カ經緯ニ關シ内査スルニ東鐵當局ニ於テハ從來從業員ニ對シ薪炭、燈用油等ヲ給與シ生活費ノ大部分ヲ補助シ來リタルカ最近事業成績不振ノ爲止ムナク之等ノ給與ヲ廢止スルニ至リタルニ依リ從業員側ハ之カ給與復活繼續方ヲ運動中ナリシモ東鐵當局ニ於テハ目下東鐵自体ノ經營難ニ直面シツツアル爲之ヲ斷行スルノ止ムナキ事情ニ在リトシ右要求ヲ容レス遂ニ理事者ト從業員トノ間ニ疎隔ヲ生スルニ至リタルカ此等從業員一部ノ間ニ來ル十一月一日革命紀念日ヲ期シ罷業ヲ決行セムトスル氣運醞釀シツツアリト云フ

之カ成行ニ關シ引續キ注意中

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣

在長春　奉天　吉林　間島各總領事

關東廳警務局長　在哈第十師團參謀長　特務機關、憲兵隊長

269　昭和7年11月14日　林関東庁警務局長より有田外務次官、柴田（善三郎）内閣書記官長、河田（烈）拓務次官宛

満州国交通部による中東鉄道改組計画について

關機高支第二二二六六號　（11月18日接受）

昭和七年十一月十四日

關東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿

交通部中東鐵路改組計畫說

十一月十日滿洲國交通部鐵道司第三科長包建中ノ語ル所ニ據レハ目下交通部ハ各鐵道政策ノ改善ヲ計畫シ特ニ東支鐵道ニ於ケル滿洲國ノ權限ヲ回收シ之ヲ改組シ而テ該鐵道ノ發展ヲ期スヘク左ノ三大計畫ヲ樹立實行ヲ期スヘシト

第一　東支鐵道幹部ノ淘汰ヲナシ之カ採用ハ最モ愼重ニ行ヒ責任職員ハ品行方正學識豊富且專門學術ヲ有スル者ヲ採用シ以テ東方ノ折衝ニ便セシムコト

第二　東支鐵道協定ヲ改ムコト卽チ前該鐵道協定ハ甚タ不公平ナル數項アルヲ以テ將來改定スル時ニ際シテハ平等

ナラシメ極東ニ於ケル利益増進ノ精神ニ違ハサルコト
第三　東支鐵道ヲシテ完全ニ商業化セシメ決シテ政治及黨務ノ作用ヲ含マシメサルコト

以　上

270　昭和7年11月30日　内田外務大臣より在ソ連邦天羽臨時代理大使宛（電報）

ホロンバイル事件に際しても我が国は中東鉄道の権益を尊重する旨ソ連政府へ伝達方訓令

本　省　11月30日発

第四六二號（至急）

我方ハ從來「コロンバイル」事件ニ對シテハ有ユル平和的手段ヲ講シ同地方ノ秩序回復及帝國臣民ノ救出ニ努力シ以テ出來得ル限リ平和的ニ同事件ヲ解決スル方針ナル一方右平和的目的達成ノ爲「ソ」政府ノ盡力ヲ請ヒ來レル處ニシテ我方トシテハ今後共右方針ニ何等變化ナキ次第ナルカ今回關東軍ニ於テハ諸般ノ狀況上右平和的手段ト平行シテ東方ヨリ軍事的行動ヲ執ルノ止ムナキニ至レリ

從テ戰鬪ノ爲勢ヒ中東鐵道ノ損害ヲ惹起スルコトアルヘキヲ懸念セラルル處我方ハ常ニ該鐵道ノ權益尊重ヲ顧念シ居ルモノナルハ勿論ニシテ昨年十一月昂々溪附近ノ戰鬪ニ於テモ我方ハ右方針ヲ現實ニ示シ何等ノ損害ヲ與ヘサリシハ事實ノ證明スル所ナリ而シテ我軍トシテハ右中東鐵道尊重ノ方針ニ變化ナキヲ以テ若シ該鐵道ニ損害アリトセハ是蘇炳文側ノ行爲ニ基ク結果ニ外ナラサルハ明白ナルモ戰鬪ノ推移ニ依リ萬一ニモ我軍ニ於テ同鐵道ニ直接的損害ヲ與ヘタルノ事實ヲ確證シタルニ於テハ我方ハ之カ復舊ニ充分ナル考慮ヲナスニ吝カナラサルモノナリ

就テハ貴官ハ「ソ」政府ニ對シ我方ハ今猶「コロンバイル」事件ヲ極力平和的ニ解決セントスル方針ヲ維持シ居ルモノナルコト及同事件ノ平和的解決ニ對スル「ソ」政府盡力ノ結果ヲ期待シツツアルモノナルコトヲ强調セラルルト共ニ前記ノ趣旨ヲ申入ラレ同政府ノ諒解ヲ求メラレタシ

在滿全權　哈爾賓及齊々哈爾ヘ轉電セリ

271　昭和7年12月1日　林関東庁警務局長より有田外務次官、柴田内閣書記官長、河田拓務次官宛

中東鉄道運賃の銀建への変更について

關機高第一六八六七號　（12月5日接受）

昭和七年十二月一日　關東廳警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿

中東鐵路運賃銀建問題

中東鐵路督辨公署方面ノ情報ニ依レハ中東鐵路ハ最近理事會委員會ニ於テ銀建及運賃低減問題ヲ提議シツツアルモ未タ決定スルニ至ラス滿洲國國幣統一サレタル今日ニ於テハ金留建ヲ主張スル何等ノ根據ナキ爲結局ソ聯側理事ノ反對モ大勢ニ拮抗スルヲ得ス近々銀建運賃ニ改正ヲ見ルヘキ氣運ニ向ヒツツアリ

以　上

272　昭和7年12月14日　在ハルビン長岡総領事代理より在満州国武藤（信義）大使宛

中東鉄道退職者に対する退職金問題の解決について

公領第三一七號　（接受日不明）

昭和七年十二月十四日　在哈爾賓　總領事代理　長岡　半六

在　滿　特命全權大使　武藤　信義殿

東支鐵道退職者ニ對スル退職資金等ニ關スル紛糾解決ニ關スル件

首題ノ件ニ關スル紛糾ハ當地多年ノ懸案トシテ退職者側ノ示威運動或ハ東支理事會等ニ對スル暴行等當地治安ノ癌ト目サレ居タル處約五千名ニ達スル退職者中八百名ヲ除ク殘余ノ者ハ本年三月三日東支理事會ノ發給セル鐵道從業員退職手當支給書ニ調印シ其結果右調印者ハ左記條件ニテ退職資金其他ノ請求金額ノ仕拂ヲ受クル事トナリ圓滿解決ヲ見タリ

一九三二年　第一期（三月）　三〇〇金留
第二期（六月）　四〇〇同
一九三三年　第一期　五〇〇同
第二期　七〇〇同

一九三四年　第一期　八〇〇同
第二期　殘額全部

然ル處前記退職手當支給書ニ調印ヲ拒絶セシ八百名ハ其後モ東支側ト紛糾ヲ續ケ居タル處滿洲國側地方官憲ノ斡旋ニヨリ今回別添誓約書ヲ滿洲國政府交通部ニ提出シ本件ハ解決ヲ見ルニ至リタリ

本信寫送付先
外務大臣
在中華民國公使　在北平參事官
在奉天　新京　齊々哈爾　滿洲里各總領事領事

（別紙）

誓約書

中東鐵路退職者タル自分等ハ自己ノ積立貯金並ニ鐵道側カ自分等ニ支拂フヘキ其他ノ金額ノ一部ヲ左記ニヨリ鐵道ヨリ受領スヘキモノトス

右支拂ヲ受クル事トナリタルニ就テハ今後滿洲國政府ノ交通部ノ指示ニ遵ヒ輕擧盲動（民衆運動）ヲナササルヘキ事ヲ誓約ス

支拂順序

一、大同元年十二月中　參百五拾金留（今日迄自己ノ貯金ノ拂戻ヲ受ケサルモノハ合計五百金留）
二、大同二年三月中　貳百五拾金留
大同元年三月三日中東鐵路理事會ノ發給セル鐵道從業員退職手當支給書ニ調印セサル退職者代表

大同元年十二月一日
滿洲國政府交通部　御中

七　日ソ外交関係雑纂

273　昭和7年1月12日　犬養外務大臣　在本邦トロヤノフスキー　ソ連邦大使　会談

日ソ不可侵条約締結問題などについて

付記　作成日不明
「日ソ不可侵條約に関する両國会談抄」

犬養大臣露國大使會談錄

昭和七年一月十二日在本邦露國大使「トロヤノウスキー」氏犬養外務大臣ヲ總理官邸ニ來訪シ

滿洲事件ハ露國政府ニ於テ多大ノ關心ヲ以テ注目シ居ル所ニシテ當初ハ日本軍カ北滿ニ迄行動スル如キコトナカルヘシト思考シ居タル處日本軍ハ結局齊々哈爾ニ進入シ現ニ之ニ駐留シ居ル狀況ナリ又一時日本側ニテハ頻リト露國カ馬占山ヲ援助シ居レリトノ宣傳ヲ爲シタルカ今日ニテハ其ノ疑モ消失セルモノト考フ然ルニ最近自分ノ新聞報道等ニテ承知スル所ニ依ルニ吉林ノ熙洽ハ東支線方面ニモ手ヲ延ハシ哈爾賓ニ在ル東支鐵道護路軍總司令丁超ト衝突セントシツツアルカ如キ處右ハ東支鐵道ニ多大ノ利害關係ヲ有スル露國トシテ憂慮ヲ禁シ得サル所ニシテ又同方面日本機關紙ノ報道ニ依ルニ日本軍ハ白系露人利用ノ方針ヲ取ラントスルヤノ趣ニテ是亦露國側ノ神經ヲ刺戟シツツアリ是等事實ハ露本國ノ輿論ニモ多大ノ衝動ヲ與ヘ政府ノ立場ヲ困難ナラシムルモノナリ右ハ不取敢自分ノ思付ニテ申上クル次第ナルカ更ニ政府ヨリ何分ノ訓令アル場合重ネテ申出ツルコトアルヘシ日露兩國ノ關係ハ之ヲ冷靜ニ考察スルニ何等衝突ノ原因ナキモノニ付兩國政府ニ於テ虛心坦懷接洽シテ善隣ノ關係ヲ保持スルコト肝要ト認ムル處先般「リトヴイノフ」外相ヨリ芳澤大使ニ對シ提議セル不侵略協定（Non Aggression Pact）締結ニ關スル貴大臣ノ御意見ヲ伺ヒタシト述ヘタルヲ以テ犬養大臣ヨリ

日本ノ北滿ニ於ケル行動モ全然自衛ノ目的ニ出テタルモ